

調査研究業務受託（酒田市）報告書
「令和4年度 酒田市観光に関する調査研究」

三木 潤一 （東北公益文科大学 公益学部）
小嶋 健太 （関西大学 経済学部）
川崎 雄二郎（名古屋工業大学 大学院工学研究科）

- 1 はじめに
 - 2 アンケート調査内容
 2. 1 アンケート調査実施方法
 2. 2 アンケート調査票
 2. 3 データ集計方法
 - 3 アンケート調査集計結果
 3. 1 旅行者の個人属性
 3. 2 旅行の特徴
 3. 3 酒田市内における消費単価
 3. 4 観光に対する評価
 - 4 観光地間の移動に関する分析
 4. 1 旅行者の訪問傾向・訪問地点の数
 4. 2 「家族」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数
 4. 3 「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数
 4. 4 世帯年収別の訪問傾向・訪問地点の数
 4. 5 同行グループ構成別の訪問傾向・訪問地点の数
 4. 6 利用交通手段別の訪問傾向・訪問地点の数
 4. 7 最初に訪問する地点・最後に訪問する地点
 - 5 離散選択モデルに基づく回帰分析
 5. 1 モデル
 5. 2 変数の説明
 5. 3 分析結果と含意
 - 6 まとめ
- 参考文献

1 はじめに

本受託研究の目的は過年度から引き続き、観光産業に関する市場に焦点を当て、酒田市民所得の向上につながる地域振興政策を提言することである。この目的を達成するため、酒田市を訪れる観光客に対するアンケート調査を本年度も新たに方法や内容を変更して実施し、とりわけ実証産業組織論の分野で発展してきた離散選択モデルに基づく手法を応用するなどして、酒田市においてどのような政策介入が観光産業に資するかについて検討する。

2 アンケート調査内容

2. 1 アンケート調査実施方法

本受託研究におけるアンケート調査は、酒田市を訪れた観光客を対象として、筆者が作成に関与したアンケート調査票に基づき、酒田市企画調整課および観光交流課が調査主体となって実施したものである。調査期間は令和4年8月1日～令和4年12月15日である。調査方法等は、次の通りである。

【調査方法】

市内宿泊施設等にアンケート用紙を設置し、観光客が帰宅後に記入のうえ、返信用封筒を用いて酒田市（企画調整課）に郵送する。なお、返信用封筒は後納郵便で酒田市が郵送料を支払うため、回答者の金銭負担は生じない。回収率向上のため、施設ごとにQRコードを設置し、Webでの回答も実施する。

また、回収率を上げるため、回答者のうち、抽選で50名に景品（つや姫2kg）を贈呈する。

【調査票配布数】

1725部

【調査回答数】

519部（Webでの回答167部を含む）

【調査票配布場所】

ホテルイン酒田 200部・月のホテル 200部・ホテルリッチ&ガーデン酒田 200部・さかたセントラルホテル 200部・酒田グリーンホテル 25部・若葉旅館 50部・鳥海山荘 50部・ミライニ 200部・山居倉庫（酒田観光ガイド協会） 400部・本間美術館 50部・山王くらぶ 50部・土門拳記念館 50部・オランダせんべいファクトリー 50部

アンケート調査票は、2. 2節（次頁以下）に示す通りである。

2. 2 アンケート調査票

アンケート調査へのご協力をお願い —令和4年度酒田市観光動向調査—

酒田市では、今後の観光振興の参考資料とさせて頂くため、酒田市における観光の動向について調査を行っています。今回の旅行の訪問先、旅行に使った費用等についてお聞きするものです。

ご協力いただいた方に、抽選で50名様に庄内産米（つや姫）2kgを発送いたします。（当選は発送をもって替えさせていただきます）

調査主体：酒田市企画調整課／電話番号：0234-26-5704／メール：kikaku@city.sakata.lg.jp

ご記入にあたってのお願い

- この調査は、今回のあなたの旅行についてお伺いするものです。
- 各質問に対して、あてはまる選択肢の番号を○で囲むか、もしくは、数字をご記入下さい。
- あてはまる選択肢の番号を○で囲む場合は、質問の文末の「1つだけ」「複数回答可」にご注意の上、ご記入下さい。
- 選択肢の「その他」をお選びの場合は、（ ）内にその内容を具体的にご記入下さい。

Q1 今回の旅行開始日を教えてください。

_____ 月 _____ 日

Q2 酒田市を訪れるのは今回で何回目ですか。 ※ 1つだけ

- ①初めて ②2回目 ③3回目 ④4回目以上

Q3 今回の旅行の主要な目的は何ですか。 ※ 1つだけ

- ①ビジネス ②観光 ③買い物 ④イベント参加 ⑤食事 ⑥帰省・知人訪問
⑦その他（ _____ ）

Q4 今回の旅行は一人旅でしたか。

- ①はい（Q7） ②いいえ（Q5・Q6へ）

Q5 Q4で「②いいえ」と回答された方にお聞きします。今回の旅行に同行された方（あなた以外）の人数を性別・年齢層別にお答えください。

※ 団体旅行の際に一緒に乗り合わせた方については記載不要です。

男 性								
9歳以下	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人	人	人	人	人	人	人	人	人
女 性								
9歳以下	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
人	人	人	人	人	人	人	人	人

Q6 Q4で「②いいえ」と回答された方にお聞きします。今回の旅行に同行された方はどのような方ですか。 ※ 複数回答可

- ①家族（夫婦・子供・親・兄弟・その他家族や親族） ②友人・知人 ③職場の人
④旅行業者等が販売するツアーパック ⑤職場・学校等の団体旅行 ⑥その他（ _____ ）

Q7 今回の旅行は酒田市内のみの観光でしたか。

①はい ⇒酒田市での泊数をご記入ください。

②いいえ ⇒訪問した地域（山形県内なら市町村名、県外なら県名）と泊数をご記入ください。
日帰りで訪問した場合は「0泊」とご記入ください。

訪問した地域（山形県内）		泊数	訪問した地域（山形県外）	泊数
山形県	酒田市	泊	秋田県	泊
山形県	鶴岡市	泊	新潟県	泊
山形県	遊佐町	泊	宮城県	泊
山形県	山形市	泊	福島県	泊
山形県	尾花沢市	泊	その他の都道府県（ ）	泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）	泊
山形県	その他の市町村（ ）	泊	その他の都道府県（ ）	泊

Q8 今回の旅行で酒田市に滞在した時間を教えてください。 ※ 1つだけ

- ①0～1時間 ②1～2時間 ③2～3時間 ④3～4時間 ⑤4～5時間 ⑥5～6時間
 ⑦6～12時間 ⑧12～24時間 ⑨24時間以上

Q9 下表の酒田市内の観光スポットについて伺います。

1	山居倉庫（酒田夢の倶楽）	11	オランダせんべい FACTORY	21	湯の台温泉鳥海山荘
2	山居倉庫（庄内米歴史資料館）	12	本間美術館	22	鶴間池
3	本間家旧本邸	13	浄福寺（唐門）	23	鳥海山湯の台登山口
4	酒田市立資料館	14	土門拳記念館	24	八幡エリア（ゆりんこ、産直たわわなど）
5	舞娘茶屋相馬樓（酒田舞娘）	15	酒田市美術館	25	眺海の森エリア（展望台、森の家など）
6	山王くらぶ	16	出羽遊心館	26	松山エリア（總光寺、文化伝承館など）
7	海向寺（即身仏堂）	17	南洲神社	27	平田エリア（十二滝、アイアイひらたなど）
8	日和山公園	18	蔵探訪館（初孫酒造資料館）	28	飛鳥エリア
9	日和山小幡楼	19	玉簾の滝		
10	さかた海鮮市場・みなと市場	20	鳥海高原家族旅行村		

Q9-(1) 今回の旅行を通じて訪れた酒田市内の観光スポットを上の上の表より選び、訪れた順に番号で教えてください。訪れた観光スポットが表の中にある場合は、かつこ内に観光スポットの名称を記載してください。

（ ） → （ ） → （ ） → （ ）
 → （ ） → （ ） → （ ） → （ ）

Q9-(2) 今回の酒田市での旅行の中で、訪問を考えたが交通の便の悪さを理由に行かなかった観光スポットを上の上の表より番号で教えてください。その観光スポットが表の中にある場合は、観光スポットの名称を記載してください。 ※ 複数回答可

Q10 今回の酒田市内における旅行を通して、観光スポットを巡る際に主に用いた交通手段を教えてください。 ※ 3つまで回答可

- ①自家用車または社用・公用車 ②レンタカー ③路線バス ④観光バス・貸切バス
 ⑤タクシー・ハイヤー ⑥自転車 ⑦徒歩 ⑧その他（ ）

Q11 今回の旅行全体を通して、居住地を出てから居住地に戻るまでの移動に主に用いた交通手段を教えてください。 ※ 3つまで回答可

- ①飛行機 ②鉄道 ③自家用車または社用・公用車 ④レンタカー ⑤路線バス・高速バス
⑥観光バス・貸切バス ⑦タクシー・ハイヤー ⑧自転車 ⑨徒歩 ⑩その他()

Q12 今回の旅行における支出額を項目別に同行者の分も含めた総額でお答えください。

Q12-(1) ツアーパックの場合

① パック代金総額を記入してください。

総額： (,000 円) ※ 千円単位で答えてください(百円の位は四捨五入)

② パック代金に含まれる内容すべてに○をつけてください。 ※ 複数回答可

内容： 交通費 宿泊代 飲食費(昼) 飲食費(夜) 買物代 入場料・拝観料 その他

③ 下の表にパック代金に含まれない支出額をお答えください。

	今回の旅行全体	うち 酒田市内
交通費	,000 円	,000 円
宿泊代	,000 円	,000 円
飲食費(昼)	,000 円	,000 円
飲食費(夜)	,000 円	,000 円
買物代	,000 円	,000 円
入場料・拝観料	,000 円	,000 円
その他(体験費用等)	,000 円	,000 円

Q12-(2) ツアーパックでない場合

各項目の支出額をお答えください。 ※ 千円単位で答えてください(百円の位は四捨五入)

	今回の旅行全体	うち 酒田市内
交通費	,000 円	,000 円
宿泊代	,000 円	,000 円
飲食費(昼)	,000 円	,000 円
飲食費(夜)	,000 円	,000 円
買物代	,000 円	,000 円
入場料・拝観料	,000 円	,000 円
その他(体験費用等)	,000 円	,000 円

Q13 あなたは今回の旅行において、酒田市の情報をどこから入手されましたか。 ※ 複数回答可

- ①ガイドブック ②旅行専門雑誌 ③パンフレット ④新聞・雑誌 ⑤テレビ・ラジオ
⑥家族・友人の話 ⑦旅行会社 ⑧観光案内所 ⑨インターネット(パソコンを経由)
⑩インターネット(スマートフォン・携帯電話から)
⑪SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど) ⑫その他()

Q14 今回の旅行を終えて、全体としてどれくらい満足していますか。 ※ 1つだけ

- ①たいへん満足している ②満足している ③不満である ④たいへん不満である

Q15 今回の旅行を終えて、酒田市にどれくらい満足していますか。 ※ 1つだけ

- ①たいへん満足している ②満足している ③不満である ④たいへん不満である

2. 3 データ集計方法

回収したアンケート調査票のデータ化においては二重入力を行い、突合の結果不一致となった内容については精査した。本節では、アンケート調査によって得られたデータの集計方法について、不規則な回答の処理を中心に説明する。

■同行者の属性

Q 6 では複数回答を許容したため、主要な同行者の属性を 1 つに特定した。たとえば、「①家族」と「④旅行業者等が販売するツアーパック」の両方を選択している場合、回答者は家族と一緒に旅行したとみなした。

■支出額

Q 1 2 については、いずれかの項目で支出額を回答しているならば、無回答の項目は支出額を「0 円」とみなした。すべての項目が無回答である場合は、支出額が不明なものとして処理した。

また、明らかに高額な（桁を誤ったと思われる）回答は、後の分析に好ましくない影響を与えるため、異常値として除外した。

■訪問した地域と観光地

Q 7 で酒田市内のみの旅行であったかどうかを回答していない場合、酒田市以外の地域を訪問していなければ酒田市内のみの旅行とみなし、酒田市以外の地域に泊数の記入があれば（「0 泊」を含む）他地域にも旅行したとみなした。それでも酒田市内のみの旅行であったかどうか不明である場合、旅行全体の支出総額が酒田市内での支出総額と等しいならば酒田市内のみの旅行であったとみなした。

酒田市の泊数が記入されていない場合、Q 1 2 で酒田市内の宿泊代について正の値を回答していれば、酒田市に宿泊したとみなした。ただし、泊数は不明のままとした。それでも酒田市に宿泊したかどうか不明である場合、旅行全体における泊数が酒田市以外での泊数と等しいならば酒田市の泊数を「0 泊」とした。

酒田市に宿泊していないと回答しているにもかかわらず市内の宿泊代を正の値で回答している場合、回答の整合性がとれないため、酒田市内の消費単価（1 人・1 日あたり支出額）を示す際にはサンプルから除外した。

なお、今年度の Web による調査では、酒田市を含めてある地域に 3 泊以上宿泊した場合に、その泊数のデータを具体的に得られていない。この場合、泊数を「3 泊」として消費単価を計算した。

■酒田市内における交通手段

Q10では酒田市内の観光地を巡る際に用いたすべての交通手段を尋ねており、さまざまな回答パターンが存在した。これらのパターンから、酒田市内で利用された主要な交通手段を特定し、自家用車、レンタカー、路線バス、観光バス・貸切バス、タクシー、自転車、徒歩の7つに分けた。たとえば、自家用車または社用・公用車を用いているならば、他の交通手段を同時に利用しているとしても、主な交通手段は自家用車であると判断した。

3 アンケート調査集計結果

本章では、アンケート調査によって得られた集計データを基に酒田市観光の実態について、旅行者の個人属性、旅行の特徴、酒田市内における消費単価、酒田市への旅行に対する満足度等の順に説明する。

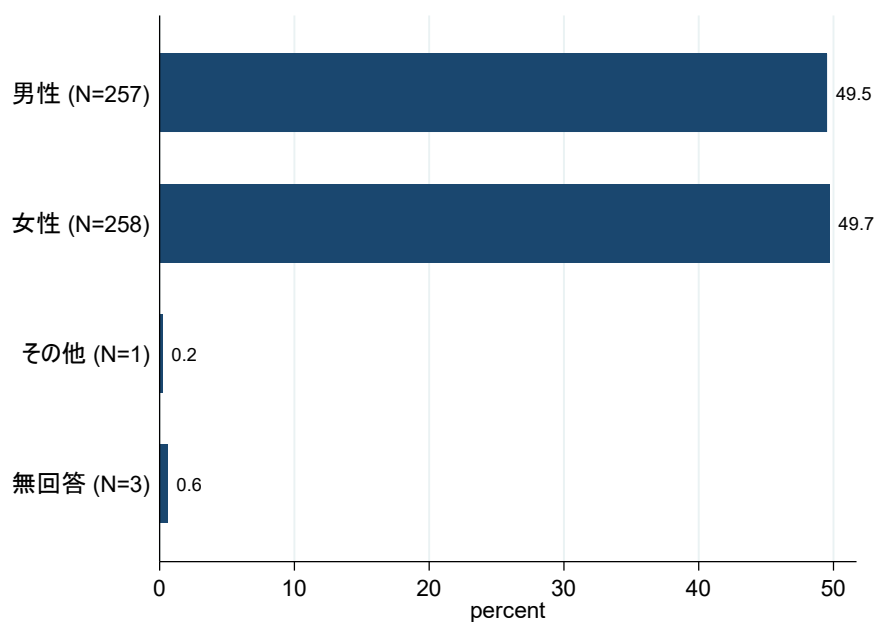
質問紙による回答が 352 名、Web による回答が 167 名、合わせて 519 名から回答を得た。

3. 1 旅行者の個人属性

■性別

アンケート調査に対する回答者の性別の分布は、図表 3-1 に示した通り、男性が 49.5%、女性が 49.7%、その他が 0.2%であった。

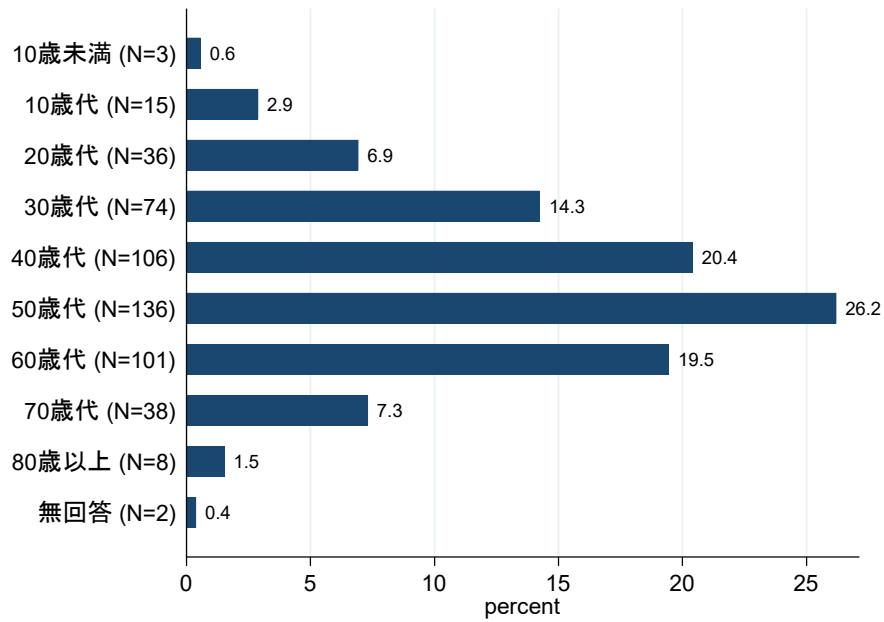
図表 3-1 回答者の性別



■年齢

回答者の年齢層の分布は図表 3-2 の通りである。50 歳代が 26.2%で最も多く、次いで 40 歳代が 20.4%、60 歳代が 19.5%であった。

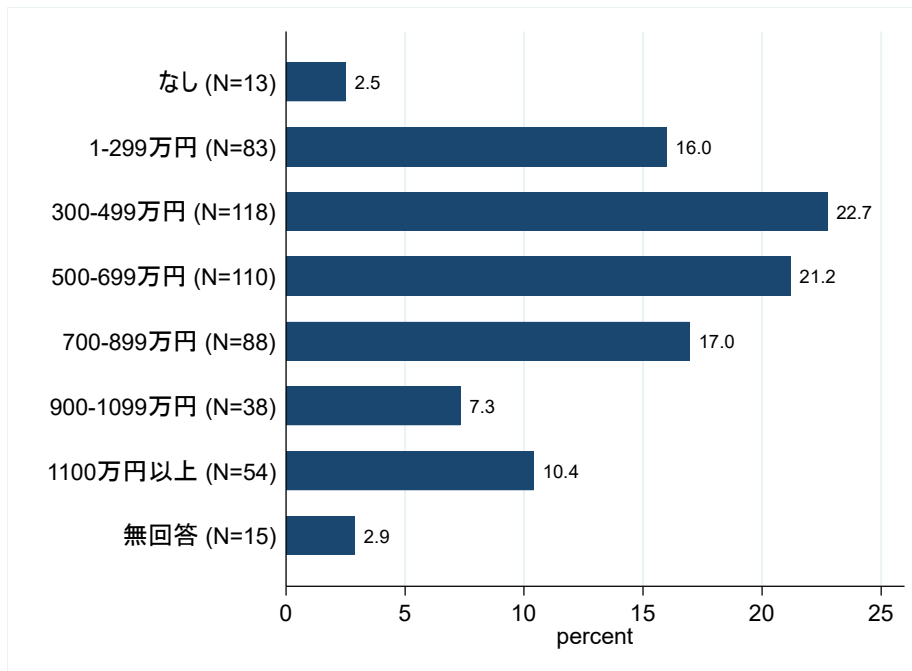
図表 3-2 回答者の年齢層



■世帯年収

回答者の世帯年収の分布は図表 3-3 の通りである。300 万円～499 万円が 22.7%で最も多く、次いで 500 万円～699 万円が 21.2%、700 万円～899 万円が 17.0%であった。700 万円未満の世帯が 6 割超を占めることになる。

図表 3-3 回答者の世帯年収



■居住地と出身地

回答者の現在の居住地と出身地を遷移行列の形で示したのが図表 3-4 である。南関東地方（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）からの観光客が 3 割を超え、山形県を含む東北地方からの観光客が 4 割を超えている。現在酒田市に居住している人の割合と酒田市出身者の割合が乖離していることは興味深い。酒田市出身の人の多くが県外に転出し、地元に戻って旅行していることになる。

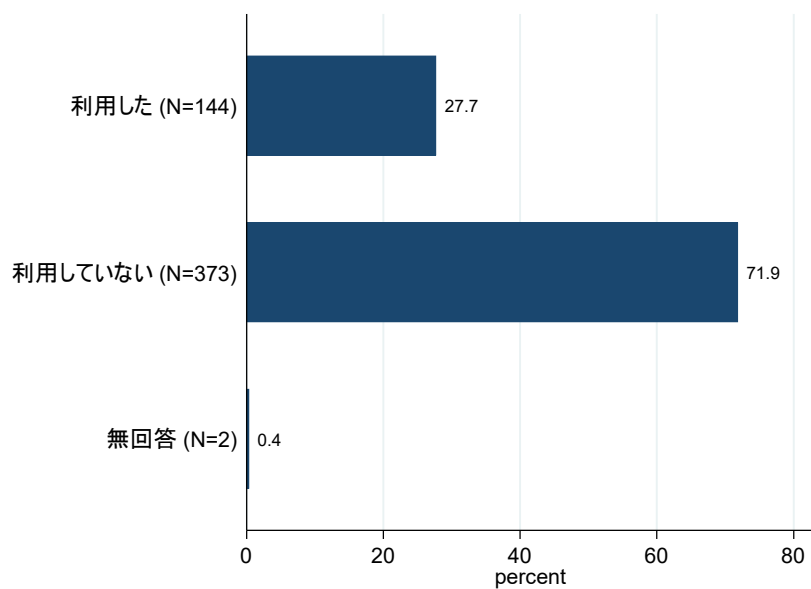
図表 3-4 回答者の居住地と出身地

出身地域	現在の居住地													計 (%)			
	山形県酒田市	山形県庄内地域(酒田地域以外)	山形県山形市(山形市以外)	山形県山形市以外	山形県庄内地域以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外	山形県山形市以外		山形県山形市以外		
山形県酒田市	12	0	5	7	0	1	19	1	2	2	1	0	0	0	7	57	11.0
山形県庄内地域(酒田地域以外)	1	7	1	1	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	1	17	3.3
山形県(庄内地域以外)	1	5	43	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	57	11.0
東北地方(山形県以外)	1	1	4	92	0	1	12	0	0	1	0	0	0	0	5	117	22.5
北海道	0	0	0	4	0	2	1	1	1	1	0	0	0	0	2	15	2.9
北関東地方	0	0	1	1	0	7	5	0	0	0	0	0	0	0	1	15	2.9
南関東地方	0	2	4	6	1	6	78	2	3	1	1	0	0	1	9	114	22.0
北陸地方	0	0	0	2	0	3	24	0	1	0	0	0	0	0	0	30	5.8
東海地方	0	0	0	6	0	10	0	0	22	0	0	0	0	0	0	38	7.3
近畿地方	0	0	1	0	1	13	0	1	15	0	0	0	0	0	0	32	6.2
中国地方	0	0	0	2	0	2	0	0	3	0	1	0	0	0	0	8	1.5
四国地方	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	0	0	6	1.2
九州・沖縄地方	0	0	0	0	0	4	0	0	1	1	1	0	1	0	0	7	1.3
海外	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
無回答	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	5	1.0	
計 (%)	15	15	60	125	6	16	159	31	29	27	4	2	1	1	28	519	
	2.9	2.9	11.6	24.1	1.2	3.1	30.6	6.0	5.6	5.2	0.8	0.4	0.2	0.2	5.4	100	

■旅行支援の利用

政府による観光需要喚起策（GoTo トラベルや全国旅行支援など）を利用したかどうかについては図表 3-5 の通りである。利用した人は 27.7%であり、多くの人が利用していない。酒田市に宿泊した人に限定しても、利用した人は 32.1%にとどまる。

図表 3-5 旅行支援の利用

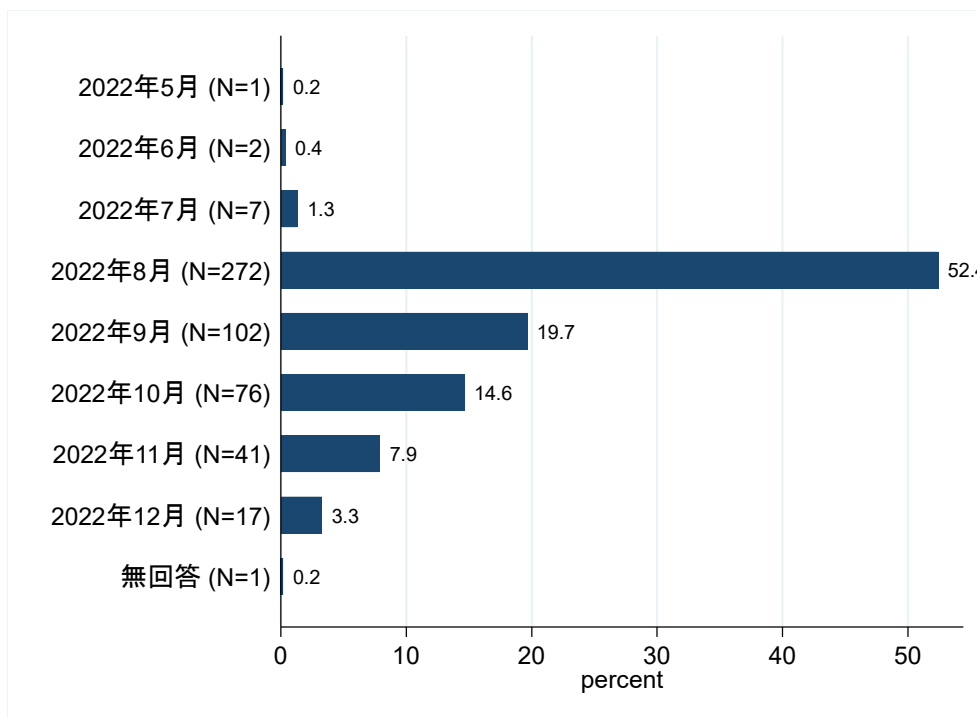


3. 2 旅行の特徴

■旅行開始月

旅行を開始した月は図表 3-6 の通りである。夏休みの時期となる 8 月が半数以上を占め、9 月、10 月がそれに続いている。

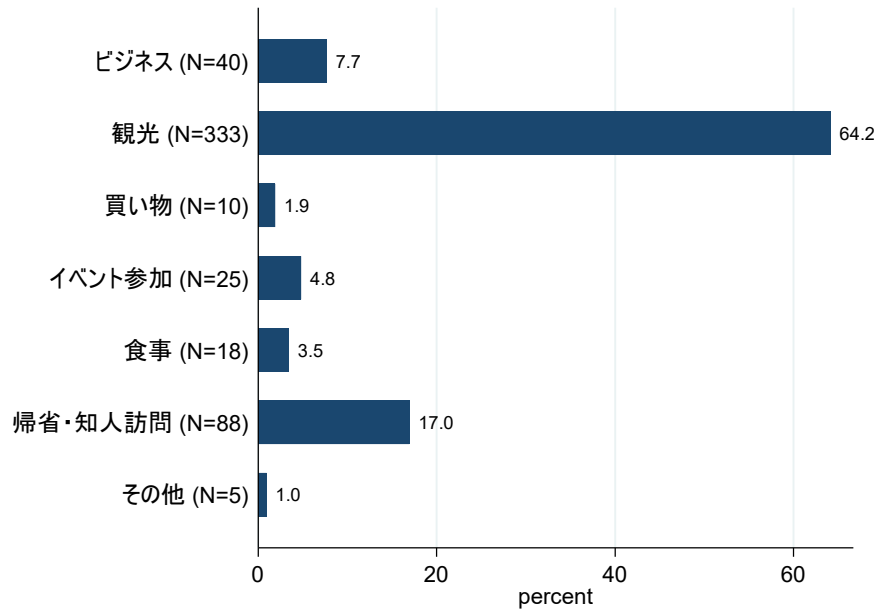
図表 3-6 旅行開始月



■旅行の目的

旅行の主要な目的は図表 3-7 の通りである。調査票では単一回答を求めていたが、ごく少数ながら複数回答している場合があったため、主要な目的を示している。観光を目的としていた人が 64.2%と最も多く、次いで帰省・知人訪問を目的としていた人が 17.0%となっている。

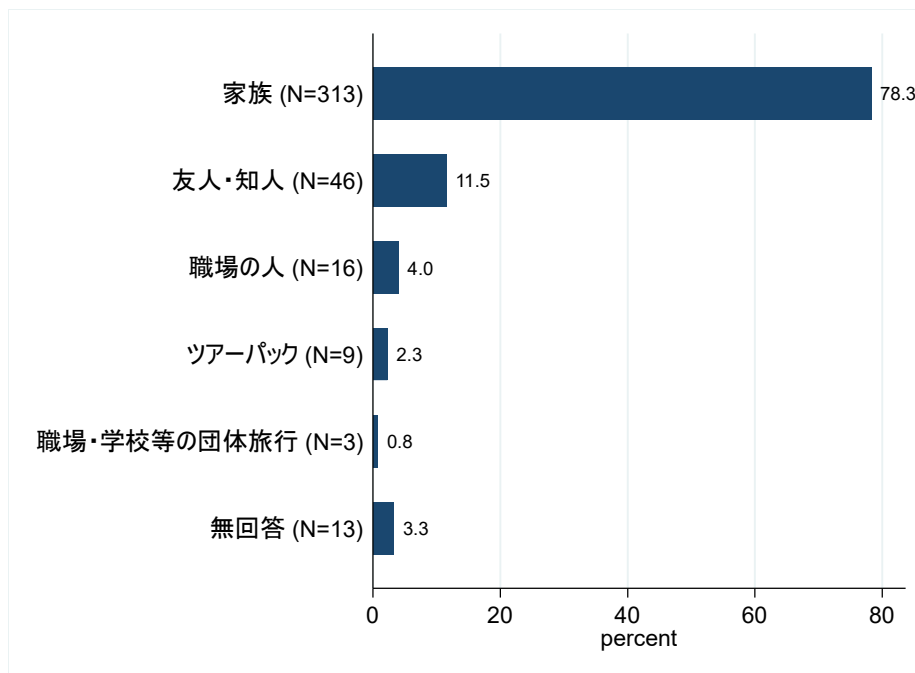
図表 3-7 旅行の目的



■同行者の有無・属性

回答者の 77.1%にあたる 400 人が誰かと一緒に旅行しており、一人旅の人は 22.5%であった。また、同行者の属性については図表 3-8 に示している。同行者がいた人のほとんどが家族と一緒に旅行しており、友人・知人と一緒に旅行している人が次に多い。

図表 3-8 同行者の属性



■旅行の行先

旅行での行先については、回答者の 27.0%が酒田市内のみ、67.1%は酒田市以外にも旅行した。図表 3-9 は、行先が酒田市内のみであったかどうかと酒田市内に宿泊したかどうかとのクロス表である。これによれば、酒田市内のみの旅行であった人はどちらかと言えば市内に宿泊しているが、酒田市以外にも旅行した人はどちらかと言えば酒田市には日帰りで訪問したことがわかる。

図表 3-9 旅行の行先

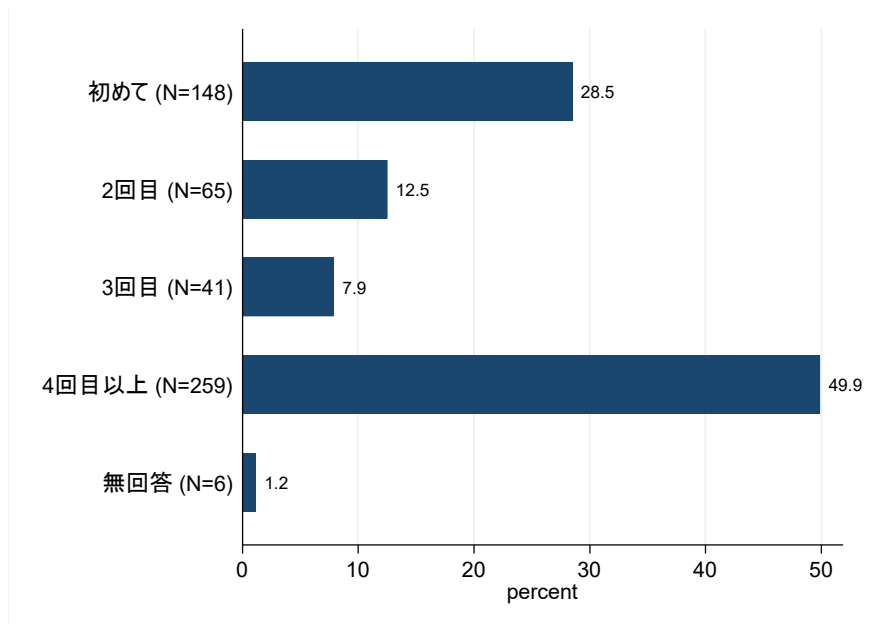
	酒田市内 に宿泊	酒田市を 日帰りで 訪問	不明	計
酒田市以外にも旅行	140	206	2	348
	27.0	39.7	0.4	67.1
酒田市内のみの旅行	84	35	21	140
	16.2	6.7	4.1	27.0
不明	16	9	6	31
	3.1	1.7	1.2	6.0
計	240	250	29	519
	46.2	48.2	5.6	100.0

(注) 上段の数値は人数、下段の数値は全体に占める割合である。

■酒田市の訪問回数

酒田市の訪問回数については図表 3-10 の通りである。約半数が 4 回目以上の訪問である一方で、初めて訪問した人は 3 割弱である。このことからリピーターが比較的多いことがわかる。

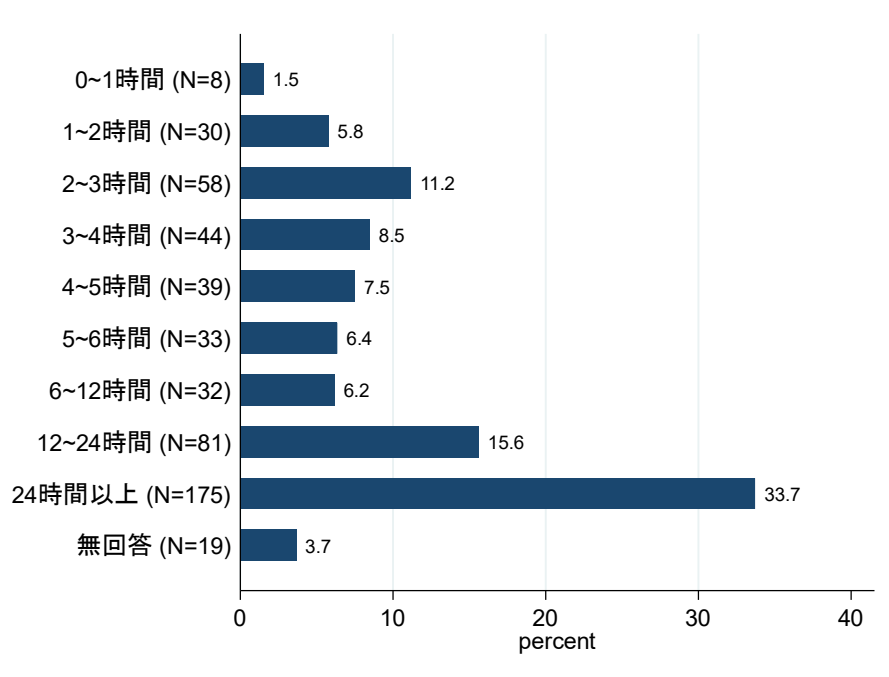
図表 3-10 酒田市の訪問回数



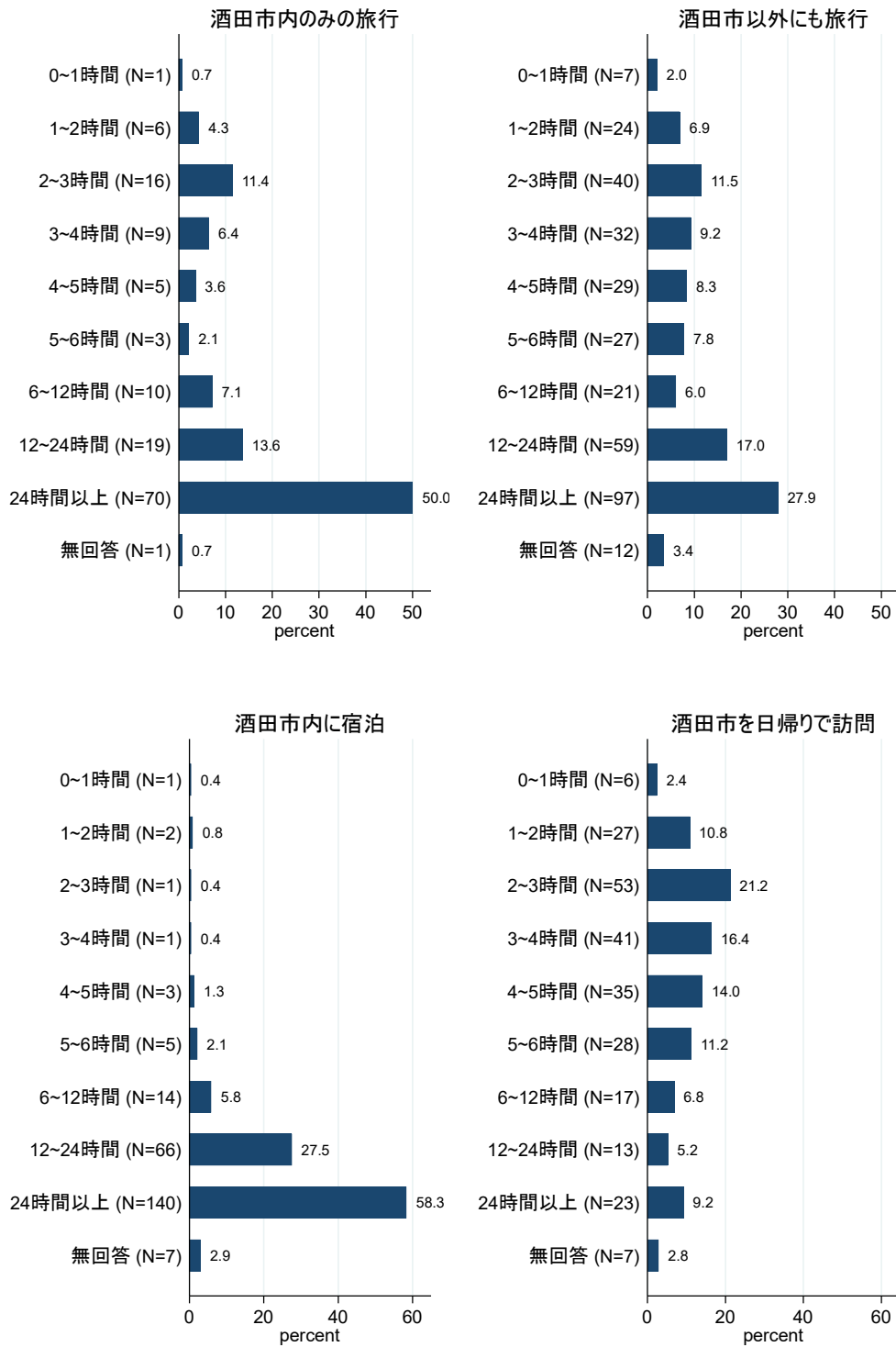
■酒田市の滞在時間

図表 3-11 は、酒田市の滞在時間を示している。丸一日以上滞在している人が最も多く、約 5 割が半日以上滞在している。一方で、およそ 4 人に 1 人は 4 時間未満の滞在であった。また、図表 3-12 に示した通り、酒田市内のみの旅行であった人ほど長く滞在している傾向があり、市内に宿泊した人は明らかに滞在時間が長い。

図表 3-11 酒田市の滞在時間



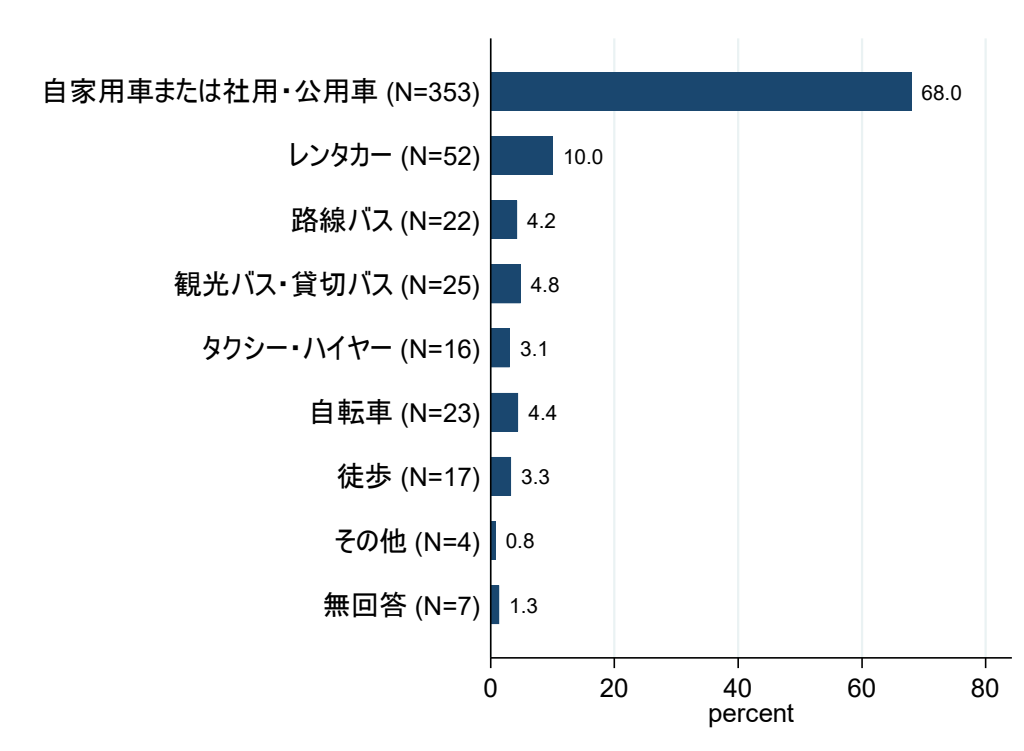
図表 3-12 酒田市の滞在時間（タイプ別）



■市内観光における主な交通手段

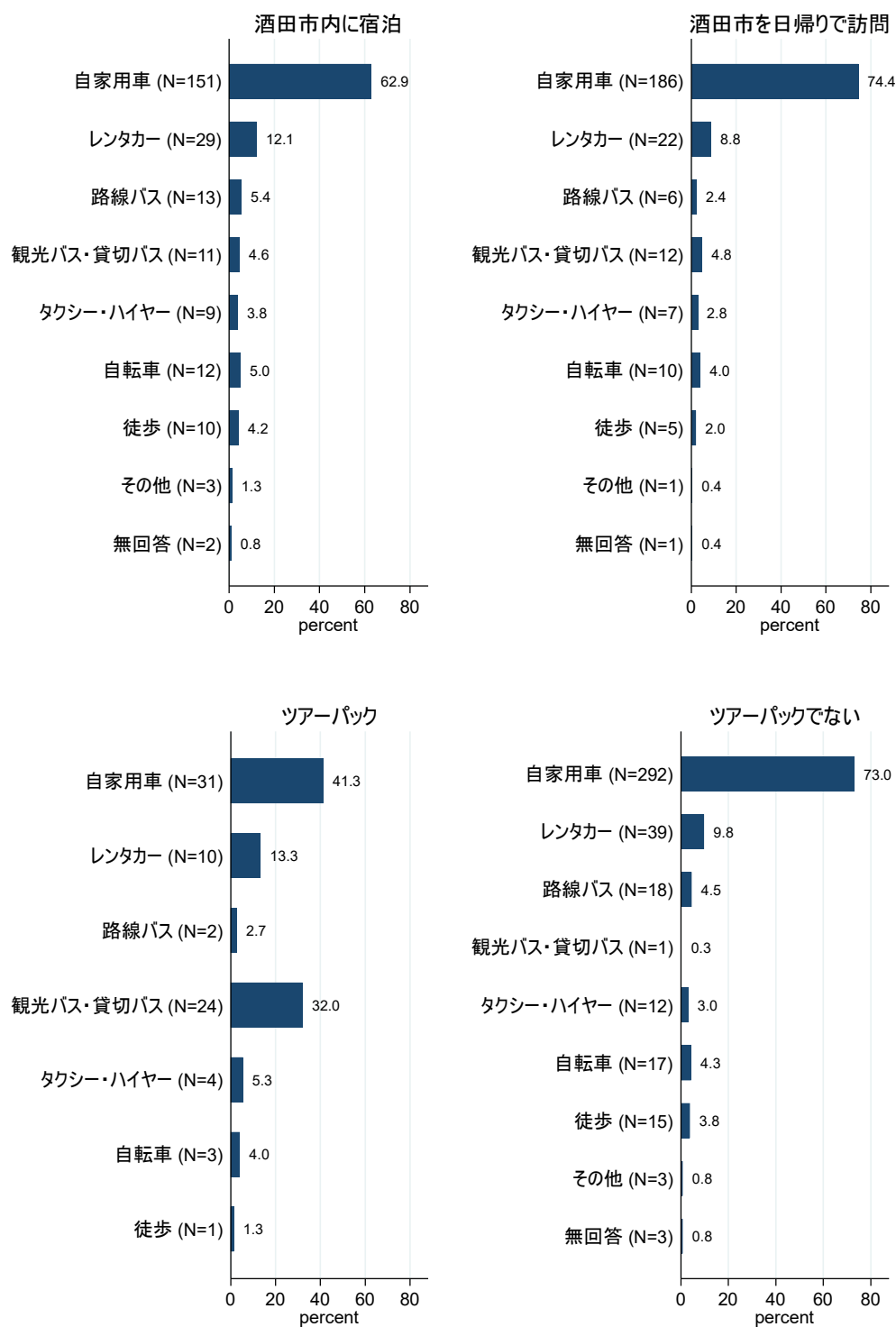
酒田市内で主に用いた交通手段については、図表 3-13 に示した通り、自家用車または社用・公用車が 68.0%と最も多く、次いでレンタカーが 10.0%、観光バス・貸切バスが 4.8%となっている。昨年度の調査結果に比べて、自家用車または社用・公用車で市内を観光した人の割合がかなり高い。

図表 3-13 酒田市内における主な交通手段



図表 3-14 は主な交通手段を旅行のタイプ別に示したものである。酒田市内に宿泊した人の方が日帰りで訪問した人に比べてレンタカー、路線バスを利用している割合がわずかに高いように見えるが、利用した交通手段の分布に大きな差はない。また、ツアーパックでの旅行だった人は、ツアーパックでない人に比べて自家用車の利用が少なく、観光バス・貸切バスの利用が多い。

図表 3-14 酒田市内における主な交通手段（タイプ別）



■情報入手手段

酒田市の情報を入手した手段は、図表 3-15 の通りである。複数回答を許容しているため、回答数の多い順に掲載した。インターネットを通じて情報を得ている人が多いのは自然なことであるが、SNS で情報を得ていると回答した人はそれほど多いとは言えない。一方、家族・友人の話がインターネットに次いで重要な情報ソースになっていることが読み取れる。

図表 3-15 情報入手手段

	回答数
インターネット(スマートフォン・携帯電話から)	251
家族・友人の話	149
インターネット(パソコンから)	124
パンフレット	103
ガイドブック	89
SNS	62
観光案内所	61
その他	36
旅行専門雑誌	33
テレビ・ラジオ	16
旅行会社	15
新聞・雑誌	14

3. 3 酒田市内における消費単価

酒田市内における消費単価について考察する。2. 3節で説明した通り、消費単価の異常値が生じないように、整合性がとれない回答はサンプルから除外した。

ツアーパックでない場合、回答者は酒田市内での支出金額を支出項目ごとに回答しているので、その数値を用いる。ツアーパックの場合、回答者はパック代金総額とそれに含まれない酒田市内での支出金額を回答しているが、ここでは後者の数値を用いる。その理由は次の2つである。ひとつは、パック代金総額に含まれる内容は回答者によってまちまちであり、支出項目ごとの内訳を適切に推計することは難しいからである。もうひとつは、回答者が酒田市以外の地域にも旅行した場合、パック代金総額のうちどれだけが酒田市内での支出額に相当するかを適切に推計することは難しいからである。ツアーパックの場合とそうでない場合で、支出項目ごとの金額の意味合いがやや異なることに注意が必要である。

図表 3-16 酒田市内における消費単価（記述統計）

(A) ツアーパックの場合		(単位:千円)			
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	45	0.34	1.72	0	10.5
交通費	45	0.23	1.49	0	10
飲食費（昼）	45	0.24	0.45	0	2
飲食費（夜）	45	0.33	0.81	0	4
買物代	45	0.59	1.03	0	4
入場料・拝観料	45	0.10	0.38	0	2
その他（体験費用等）	44	0.11	0.54	0	3.5

(B) ツアーパックでない場合		(単位:千円)			
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	343	2.83	4.30	0	35
交通費	342	0.97	2.97	0	35.3
飲食費（昼）	342	0.67	1.22	0	15
飲食費（夜）	343	0.88	1.99	0	20
買物代	343	1.00	1.89	0	20
入場料・拝観料	343	0.18	0.64	0	7
その他（体験費用等）	343	0.05	0.43	0	5.83

(C) 酒田市を日帰りで訪問した場合 (単位:千円)

	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	170	0	0	0	0
交通費	170	0.28	1.02	0	10
飲食費 (昼)	170	0.56	1.43	0	15
飲食費 (夜)	170	0.07	0.34	0	2.5
買物代	170	0.53	1.08	0	7.5
入場料・拝観料	170	0.15	0.65	0	7
その他 (体験費用等)	170	0.03	0.27	0	3.5

(D) 酒田市内に宿泊した場合 (単位:千円)

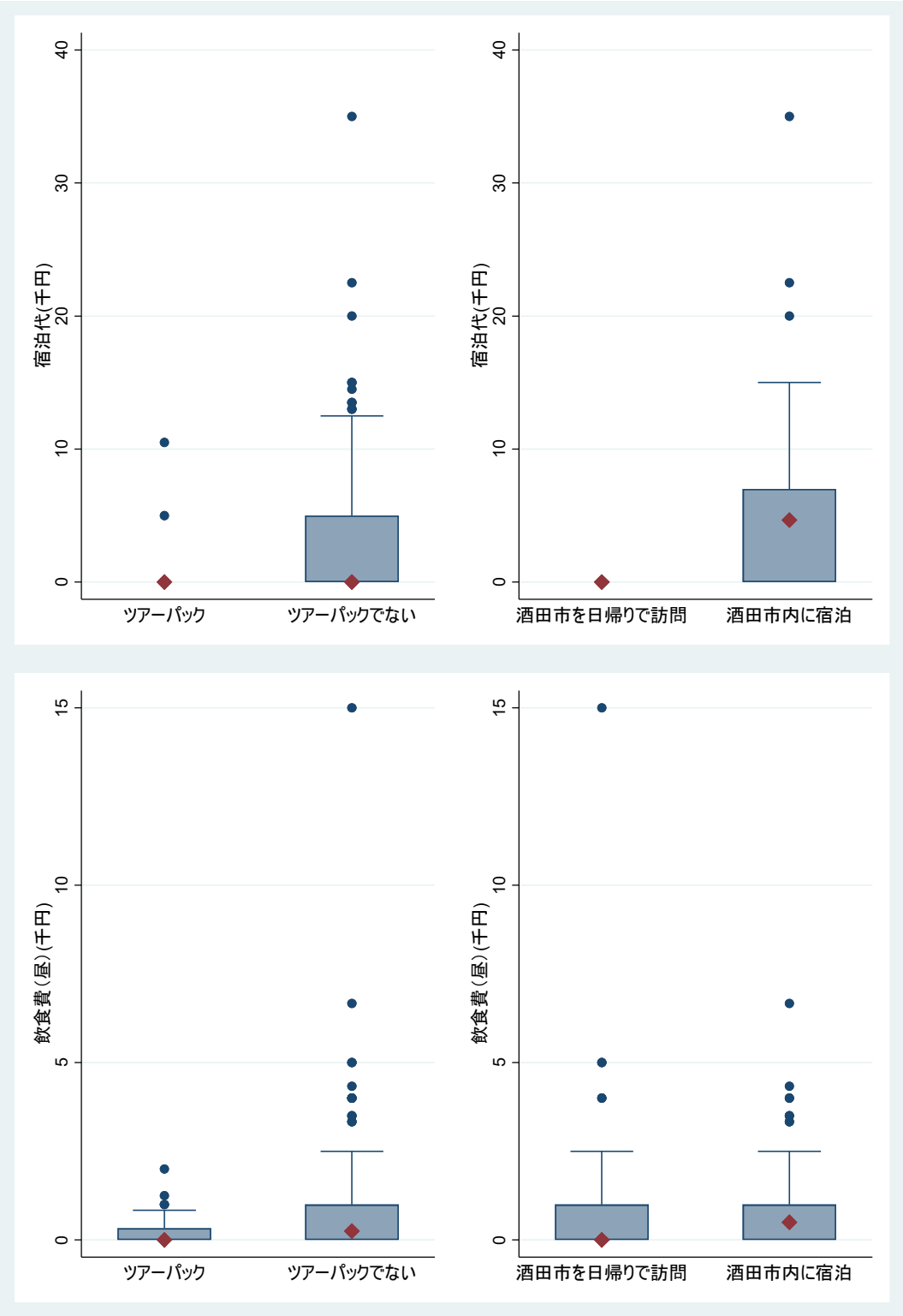
	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
宿泊代	205	4.82	4.68	0	35
交通費	204	1.44	3.72	0	35.3
飲食費 (昼)	204	0.71	0.92	0	6.67
飲食費 (夜)	205	1.49	2.41	0	20
買物代	205	1.37	2.22	0	20
入場料・拝観料	205	0.21	0.61	0	6.67
その他 (体験費用等)	204	0.08	0.56	0	5.83

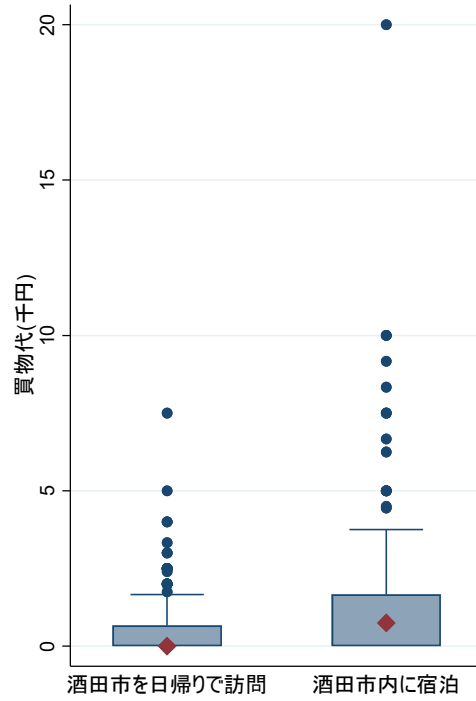
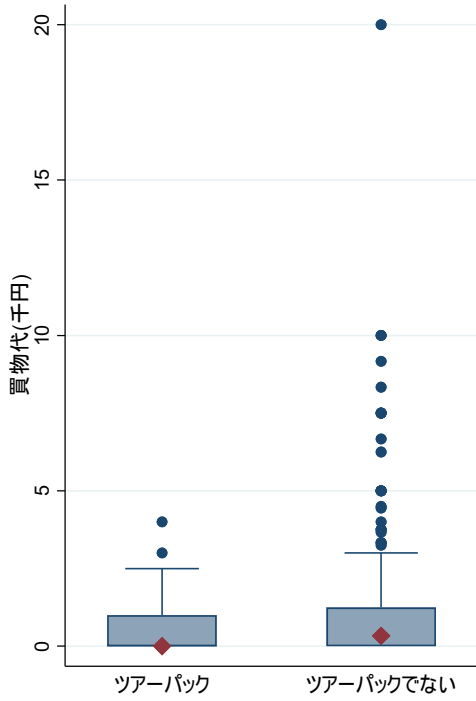
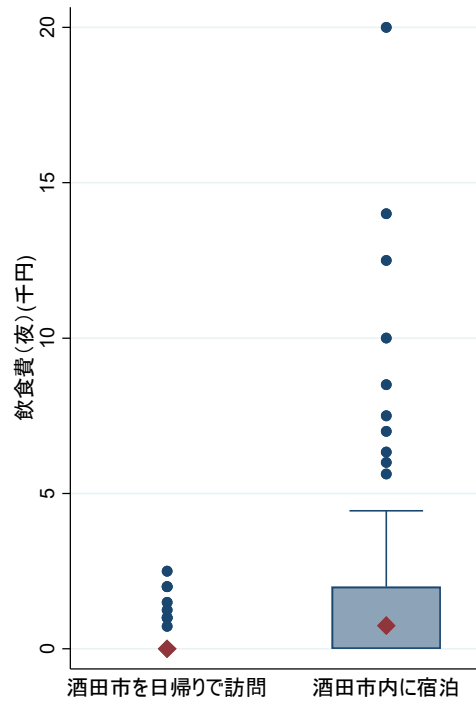
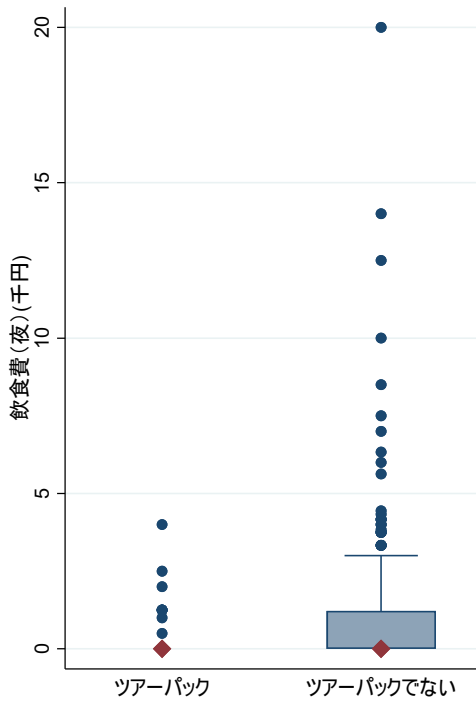
宿泊代については、回答された値を同行者数と酒田市の泊数で除して1人・1泊あたりの金額を算出した。それ以外の支出項目については、酒田市の滞在日数(=泊数+1)で除して1人・1日あたりの金額を算出した。

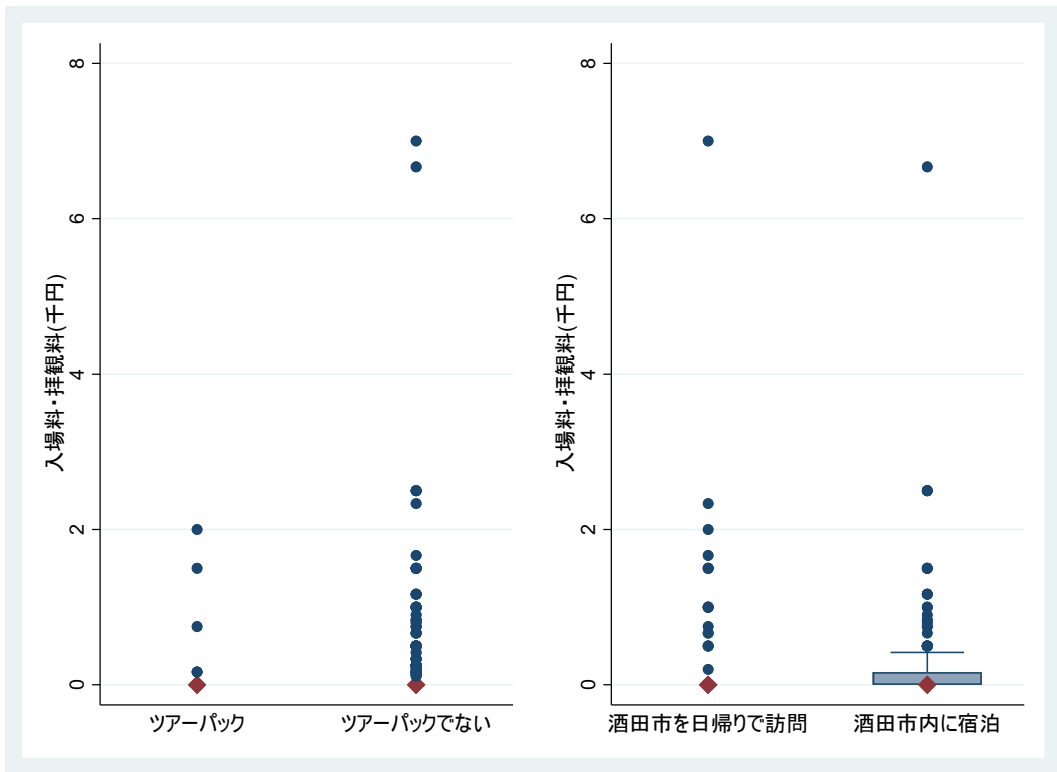
酒田市内における消費単価の記述統計は図表 3-16 の通りである。ツアーパックの場合の消費単価は、パック代金に含まれない追加的な支出額を表しているため、ツアーパックでない場合の消費単価に比べておおむね平均的に低くなっている。また、酒田市内に宿泊した場合は市内に滞在する時間が長く、消費も多いと考えられ、日帰りで訪問した場合に比べてどの支出項目についても平均的な消費単価は高い。

図表 3-17 は、酒田市内における消費単価の分布を箱ひげ図で示している。箱の中に書かれた赤い菱形の記号は中央値を表す。その他(体験費用等)については平均値がごく小さいため省略した。

交通費については、ツアーパックであるかそうでないか、または酒田市内に日帰りで訪問するか宿泊するかに関係なく、中央値は0円または0円に近い。ツアーパックの場合よりもツアーパックでない場合の方が、日帰りの人より宿泊した人の方が高い支出額にやや多く分布している。





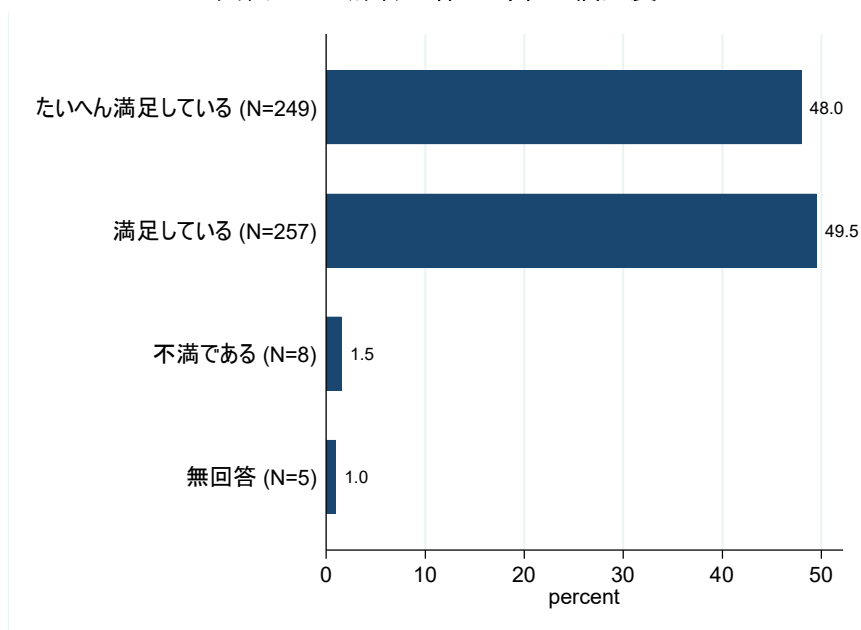


3. 4 観光に対する評価

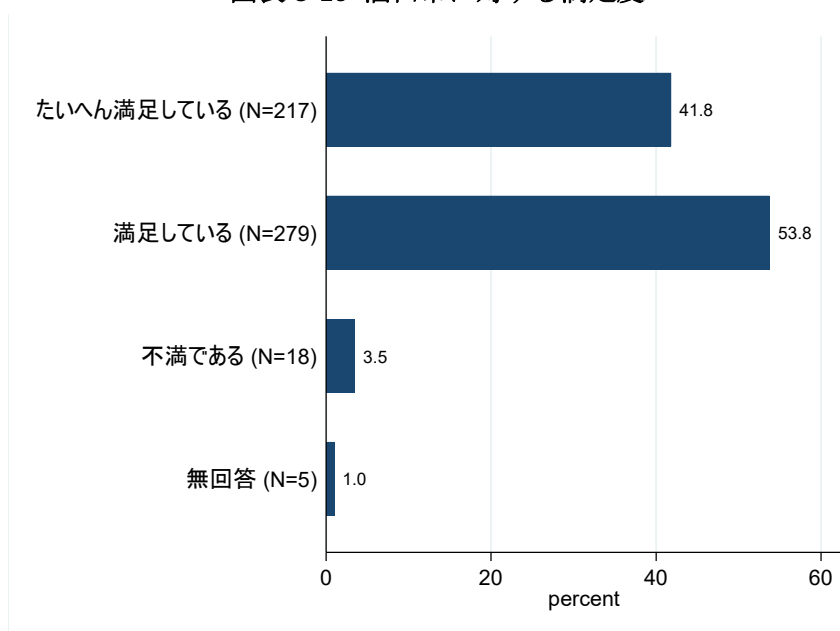
■満足度

旅行全体と酒田市に対する満足度は、それぞれ図表 3-18 と 3-19 の通りである。「たいへん満足している」と「満足している」を合わせれば、旅行全体に対しても、酒田市に対しても、95%超の人が満足していることが分かる。

図表 3-18 旅行全体に対する満足度



図表 3-19 酒田市に対する満足度



■市の魅力

図表 3-20 は、回答者が酒田市のどの点に魅力を感じたかを示している。複数回答を許容しているため、回答数の多い順に掲載した。自然・風景、飲食、名所・旧跡、買物（お土産・名産品など）に魅力を感じている人が多い。

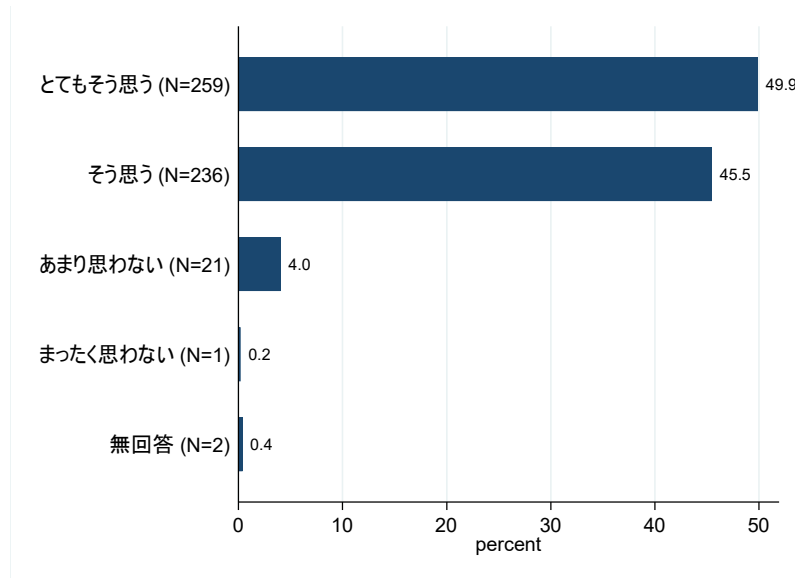
図表 3-20 酒田市の魅力

	回答数
自然・風景	267
飲食	232
名所・旧跡	200
買物(お土産・名産品など)	184
街並み	114
美術館・博物館	100
伝統文化	87
宿泊	82
観光案内所での情報提供	59
ガイドなど出会った人	48
街の清潔さ	47
交通状況(道路の渋滞等)	27
その他	24
公共交通機関	6

■再訪意思

酒田市を再び観光で訪れたいと思うかどうかについては、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせれば、95%程度の人が再訪の意思があることが分かる（図表 3-21）。

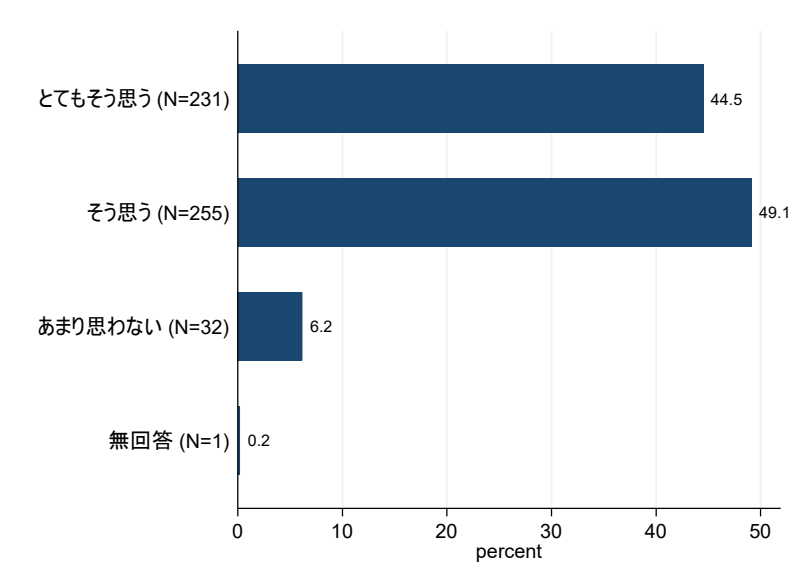
図表 3-21 酒田市への再訪意思



■推薦

酒田市への観光を親しい友人に勧めたいと思うかどうかについては、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせれば、約9割の人が勧めたいと思っており、酒田市に対する評価は総じて高いと言える（図表 3-22）。

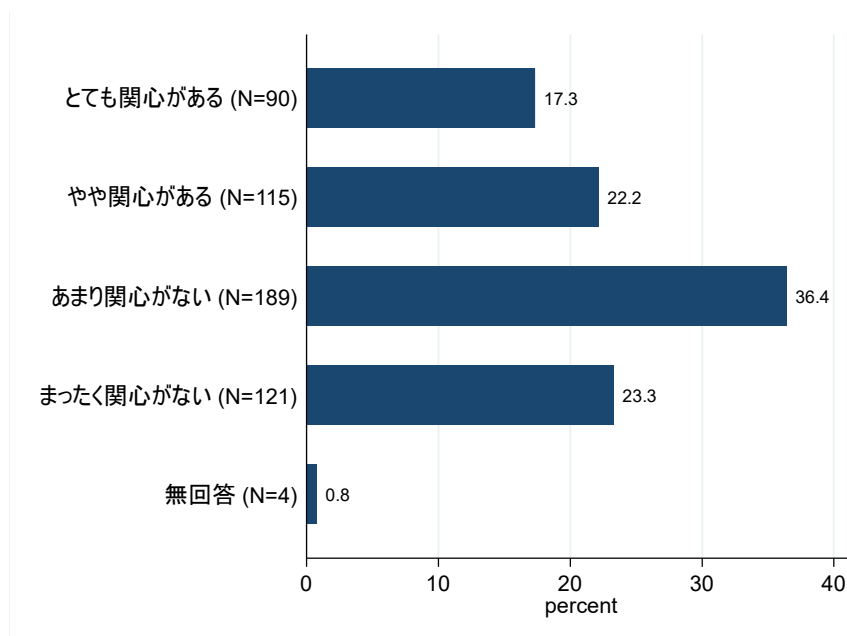
図表 3-22 酒田市観光の推薦



■移住への関心

一方、酒田市や庄内地域への移住に対して関心があると回答しているのは約 4 割にとどまる（図表 3-23）。酒田市に対する観光地としての評価は高いものの、移住については消極的であると言える。

図表 3-23 酒田市・庄内地域への移住に対する関心



4 観光地間の移動に関する分析

本章では、旅行者がどのような訪問ルートをとって観光地を訪れているか、またさらには旅行者の属性によって訪問ルートを選択に傾向の違いがあるかを見ていく。分析にあたっては、各回答者が訪れた観光地とそれらを訪れた順番のデータを基に訪問ルートを再現し、それを一般にグラフと呼ばれるネットワーク構造の形式で図示することによって、視覚的に傾向をとらえる方法をとる。

4. 1 旅行者の訪問傾向・訪問地点の数

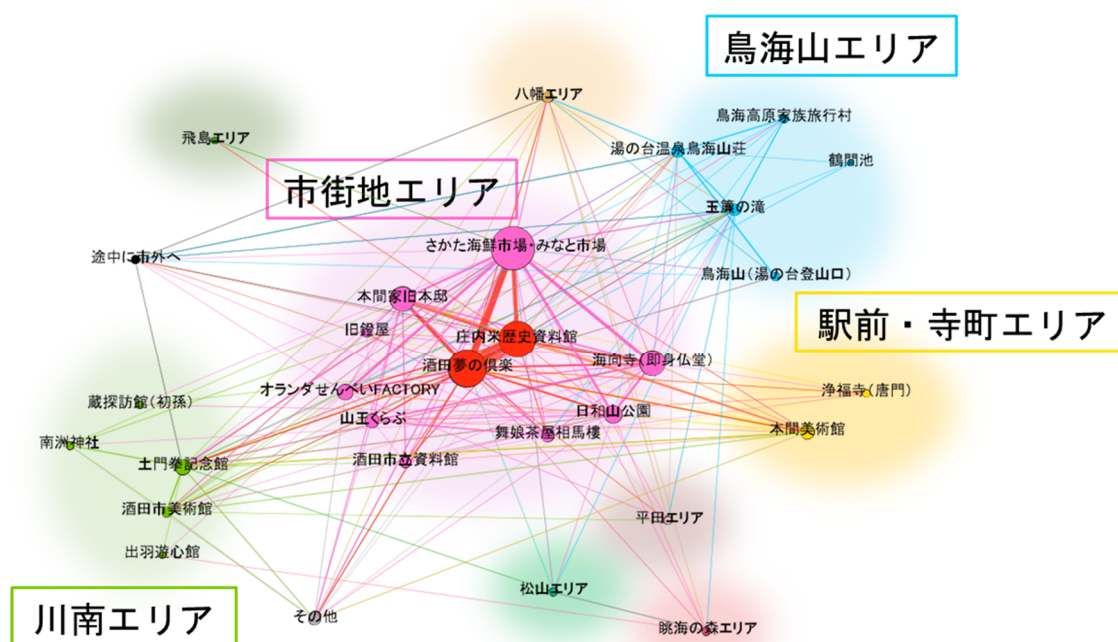
はじめに、全回答者が観光地を移動した経路を表したネットワークを図表 4-1 に示す。図表中にある各点は観光地を表しており、エリアごとに地理関係と図表の見やすさを考慮しながら配置してある。さらに、観光地をエリアごとにまとめ、エリア間の移動経路として表したものを図表 4-2 に示す。

任意の 2 地点の間に引かれる線分（以下、「辺」）はその 2 地点のどちらか一方を始点とし他方を終点とする（ほかの地点を経由しない）移動を表す。つまり、たとえば 1 か所目に A、2 か所目に B、3 か所目に C を訪れる訪問ルートは、グラフ上には A と B を表す 2 点間および B と C を表す 2 点間のみに辺を記すことで表現される。各辺はそこを移動した回答者の数に比例して太く、また各点はその点を終点とした移動の合計に比例して大きく表示してある。平たく言えば、各辺の太さはそこを通った回答者の数、各点の大きさはそこを訪れた回答者の数を反映している。さらに各点の色はエリアごとに統一（山居倉庫に位置する酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館を表す 2 点のみ同じ市街地エリアの点とは異なる色を使用）し、各辺の色は始点と同じ色とした¹。

図表 4-1 からはまず、訪問数の多い観光地が市街地に集中しており、中でも山居倉庫（酒田夢の倶楽、庄内米歴史資料館）とさかた海鮮市場・みなと市場へ訪問する回答者の割合（以下、訪問割合）が最も高いことが見てとれる。また、これらの観光地は、他の観光地との間での移動も頻繁に見られることから、酒田市内の旅行においてハブとしての役割を担っていることが考えられる。例年では、さかた海鮮市場・みなと市場への訪問割合は山居倉庫へのそれよりもやや小さかったが、今年は山居倉庫と同じ水準にまで増加している。これについては、今年度 9 月に海鮮市場周辺で商業施設 SAKATANTO が開業したことが原因の 1 つとして考えられる。市街地エリアでは他にも本間家旧本邸、海向寺への訪問割合が特に目立つ。市街地エリア以外にも目を向けると、川南エリアでは土門拳記念館と酒田市美術館、駅前・寺町エリアでは本間美術館、鳥海山エリアでは玉簾の滝と鳥海山（湯の台登山口）に他エリ

¹ 2 点の間にはどちらを始点とするかで区別された（場合によって色も異なる）2 本の辺が存在しうるが、それらを分けて描き表すことによって表示が煩雑となるため、2 点を通る直線上に両者を重ねて表示することとした。しかし、通った回答者の数によって辺の太さに差を設けてあるため、数が大きい辺の方が強調されていることに変わりはない。

図表 4-1 全回答者の移動経路ネットワーク（地点間）



アからの移動経路が集中しており、これらが各エリアの玄関口となっていることが分かる。昨年度においては、鳥海高原家族旅行村と鶴間池への訪問が観測されず、鳥海山エリアへの訪問への訪問が縮小している印象があったが、今年度では一昨年度以前の状況と同じ程度にまで回復した。しかし、今年度は調査期間が広がっていることが影響している可能性もある。エリア単位での移動を示す図表 4-2 を見ても、駅前・寺町エリア、川南エリア、鳥海山エリアのそれぞれと市街地エリアとの間の移動が盛んであることが分かる。

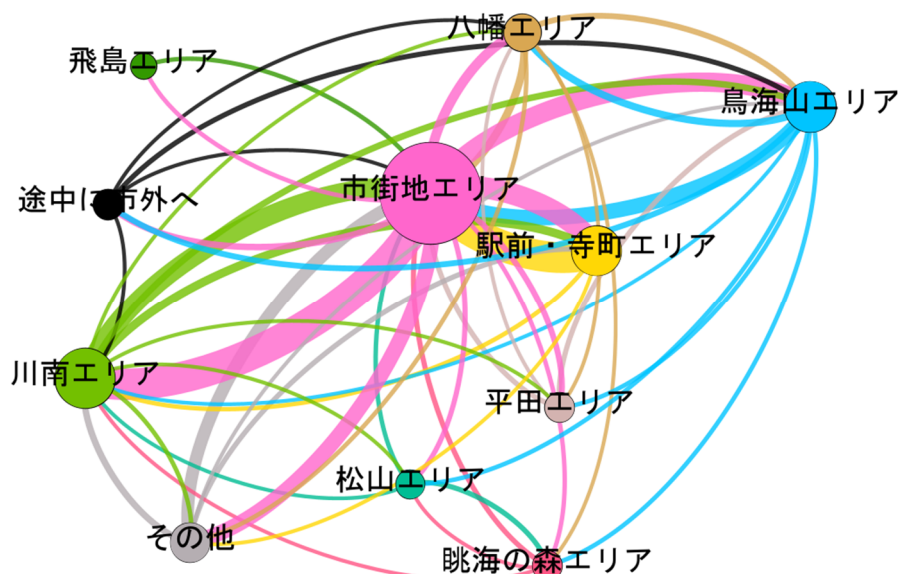
図表 4-3 は、回答者が酒田市内で訪問した地点数の分布を表すヒストグラムである。訪問地点数の最頻値は 1 か所であり、平均値は 3.03 であった。昨年度の調査では訪問地点数平均が 3.42 という結果（有効回答者数 384 名）であり、Welch の t 検定²を実施したところ今年度の平均値は昨年度のそれよりも有意に小さい。これにより、2 年連続で前年度よりも平均訪問地点数が有意に減少するという結果となった。

4. 2 「家族」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数

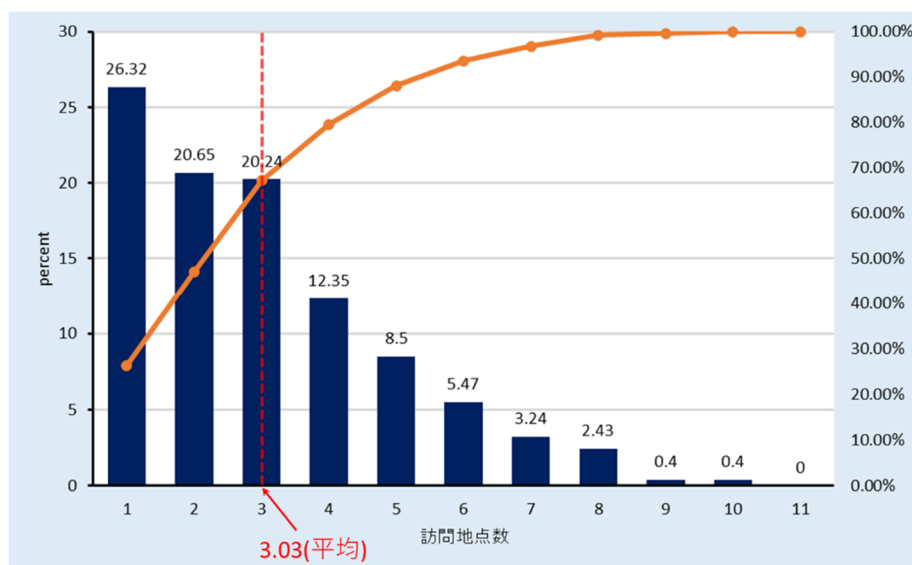
昨年度まで回答者の年齢別での訪問傾向および訪問地点の数についての分析を行っていたが、回答者の年齢のみに基づいて分類を行うと同じ年齢構成のグループが複数の異なる区分に含まれることになるため、区分ごとに傾向の違いをとらえることが困難であった。たとえば、回答者が 40 歳代の区分と 60 歳代の区分には、40 歳代と 60 歳代が同行者に含まれ

² Welch (1947)を参照。検定に際しては、有意水準を 5%とした両側での検定を行った。

図表 4-2 全回答者の移動経路ネットワーク（エリア間）



図表 4-3 訪問地点数の分布



るグループがどちらにも含まれるため、これらの区分が類似した訪問傾向を示すこととなる。そこで、今年度は回答者の年齢別での訪問傾向および訪問地点の数の分析は行わず、同行者の属性にも依拠した区分で分析をすることにする。

ここでは、「家族」と同行した旅行者に焦点を当て、世代構成別での訪問傾向・訪問地点の数を見ていく。細かな特徴によって分類されることから、各区分に属する回答者の均質化が期待される一方、各区分の該当者数（サンプルサイズ）が小さくなってしまったため、得られる結果に対する信憑性が比較的乏しくなる点には注意が必要である。

「家族」グループにおける世代構成別の訪問地点数の平均値を図表 4-4 に示す。「子ども」

図表 4-4 「家族」グループ世代構成別の訪問地点数³

「家族」世代構成	該当者数	訪問地点数平均
子ども+成年+老年	24	2.96
子ども+成年	62	2.76
成年+老年	47	2.85
子どものみ	2	6.00
成年のみ	98	3.26
老年のみ	65	3.32
不明	0	—

を含む区分は 0～19 歳、「成年」を含む区分は 20～59 歳、「老年」を含む区分は 60 歳以上の同行者（回答者自身を含む）がいる場合を指す。子ども+老年の区分については、該当者数が 0 であったために図表では割愛した。訪問地点数の平均が最大となるのは子どものみの区分であり、最小となるのは子ども+成年の区分であった。なお、子どものみの区分は該当者が 2 と少ないため、区分が持つ真の傾向を表す結果であるとは言いにくい。しかしながら、4. 2 節と同様に平均の差の検定を行ったところ、子どものみの区分は他のすべての区分と有意な差があることが分かった。

「家族」グループにおける世代構成別の移動経路ネットワークを図表 4-5 に示す。図表 4-1 や図表 4-2 と同じく、各グラフにおける辺の太さはそこを移動する回答者の数を表すが、区分によってサンプルサイズの差がある点に配慮し、各区分の総移動数が 100 になるように基準化して辺の太さを調整した⁴。そのため、サンプル数が少ない区分においては辺の太さの対比がより極端に表れる傾向にある点に注意されたい。各点の大きさについては、まず訪問割合が最も高い地点を示す点の大きさを区分間で統一し、そこを基準として区分ごとに訪問割合に応じて各点の大きさを調整した。

今年度の調査では、子どもを含む区分のサンプル数が昨年度に比べて急増した。これは今年度の調査期間に子どもの夏季休暇が重なったことが理由として考えられる。子ども+成年+老年の区分は、市内では市街地エリアに移動が集中しているが、途中に市外へ向かう割合は他の区分と比べてわずかに多い。子ども+成年の区分は子ども+成年+老年よりも郊外エリアへの訪問割合が若干多いと見られる。子どものみの区分についてはサンプル数が極端に少ないので議論しないこととする。

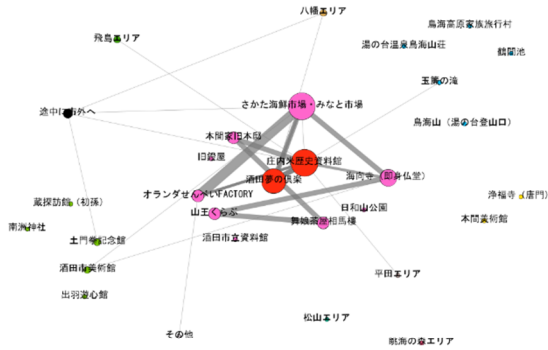
残りの成年+老年、成年のみ、そして老年のみの 3 区分については、いずれも市街地を中心とした移動傾向がある点で共通している。成年+老年の区分は本間美術館、酒田市美術館、土門拳記念館、鳥海高原家族旅行村、湯の台温泉鳥海山荘への訪問割合が高いことが特徴として挙げられるが、子ども+成年+老年の区分とあわせて成年と老年の両方を含むグループ

³ 図表 4-4 に記された「該当者数」は、アンケートにおいて酒田市内の移動経路を問う質問に対し有効回答を行った回答者のみを区分ごとに数えたものであり、3 章で示された集計結果とは必ずしも一致しない。また、これ以降の同様の図表における該当者数についても同様である。

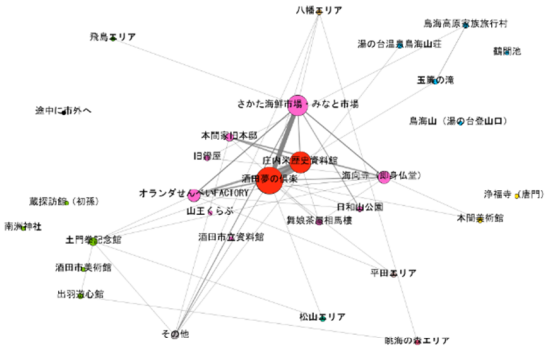
⁴ 厳密には、観光地 i を始点、観光地 j を終点とする辺 ij の移動を行った回答者の数を n_{ij} としたとき、各辺 ij について $n_{ij}/(\sum_{k,l,k \neq l} n_{kl})$ で表される割合の大きさに応じて辺の太さを調整した。

図表 4-5 「友人・知人」グループ世代構成別の移動経路ネットワーク

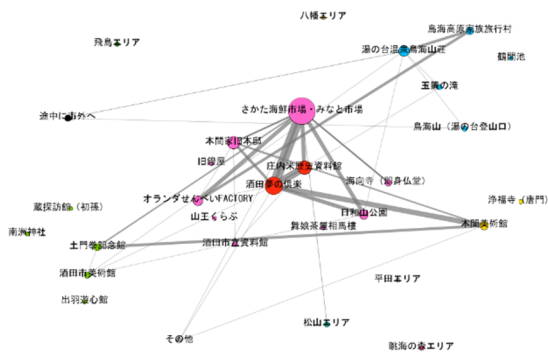
(1) 子ども+成年+老年



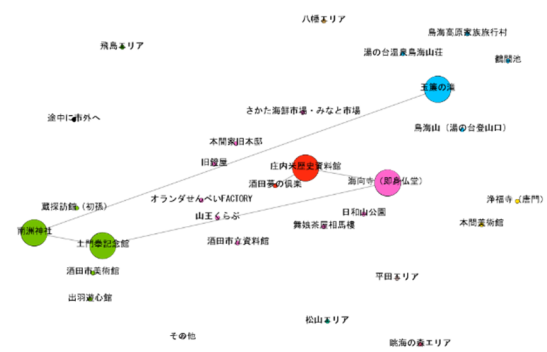
(2) 子ども+成年



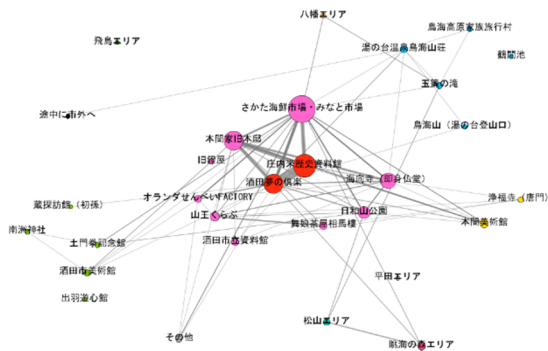
(3) 成年+老年



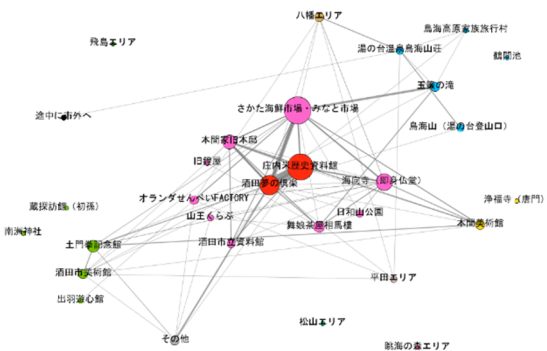
(4) 子どものみ



(5) 成年のみ



(6) 老年のみ



は行動範囲が限定的な印象がある。また、成年のみの区分と老年のみの区分とでは大きな違いは見られなかった。

4. 3 「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、「友人・知人」と同行した旅行者に焦点を当て、世代構成別での訪問傾向・訪問地点の数をみていく。「友人・知人」グループにおける世代構成別の訪問地点数の平均値

を図表 4-6 に示す。「子ども」、「成年」、「老年」の表記の意味は前節と同様である。「子ども」を含むすべての区分（子ども+成年+老年、子ども+成年、子ども+老年、子どものみの 4 区分）の該当者数は 0 であったため、図表では割愛した。今年度では老年を含む区分の該当者数が大きく減少した。これについて原因を探するのは難しいが、新型コロナウイルスの流行により重症化率の高い高齢者層が旅行を控えた可能性が考えうる。

訪問地点数の平均が最大となるのは老年のみの区分であり、最小となるのは成年のみの区分であった。成年のみで構成された友人・知人グループよりも老年のみで構成された友人・知人グループの方が訪問地点数が多いという結果となったが、4. 2 節と同様に平均の差の検定を行ったところ、該当者の存在した 3 つの区分のうち、どの 2 つの区分の間にも有意な差は確認されなかった。

「友人・知人」グループにおける世代構成別の移動経路ネットワークを図表 4-7 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。成年+老年の区分はサンプル数が少ないが、さかた海鮮市場・みなと市場と土門拳記念館の間の移動が目立つ。成年のみの区分は八幡エリア、鳥海山エリアへの訪問が比較的が多い点、老年のみの区分は本間家旧本邸、さかた海鮮市場・みなと市場、本間美術館への訪問割合が高い点がそれぞれ特徴的である。

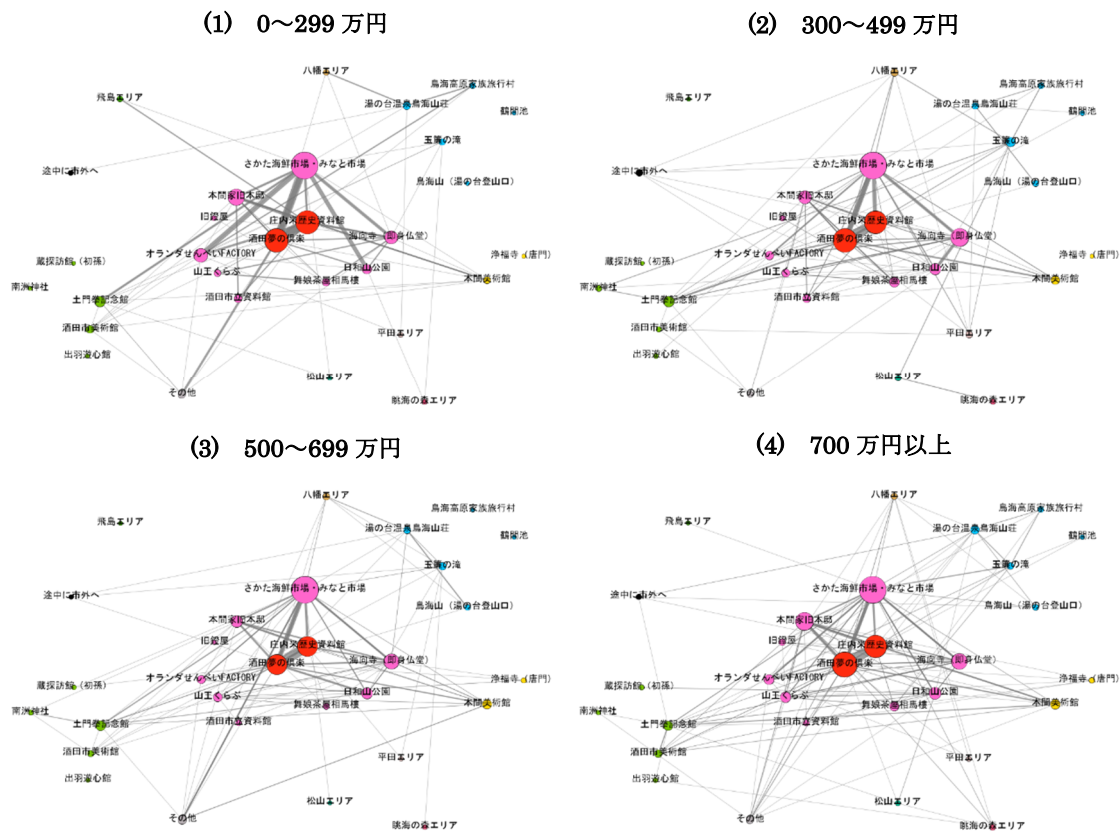
4. 4 世帯年収別の訪問傾向・訪問地点の数

世帯年収別の訪問地点数の平均値を図表 4-8 に示す。基本的には 200 万ごとの区分を採用したが、区分ごとサンプル数の大きさにばらつきがあったため、「なし」（無収入）と「1～299 万円」をまとめて「0～299 万円」とし、「700 万～899 万円」、「900 万～1,099 万円」そして「1,100 万円～」をまとめて「700 万円以上」とした。「不明」（無回答含む）の該当者数がやや多いのは、世帯年収を答えることに抵抗があったことが考えられる。

訪問地点数の平均値が最大となるのは 300～499 万円と 700 万円以上の区分、最小となるのは 0～299 万円の区分であった。しかし、最大と最小の差がさほど大きくないことから、Welch の t 検定において両者の間に有意な差は検出されなかった。

世帯年収別の移動経路ネットワークを図表 4-9 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。0～299 万円の区分は、他の区分と比べて市街地エリア、駅前・寺町エリアに移動が集中する傾向がある。0～299 万円の区分以外はあまり大きな差がないように見えるが、移動経路を見ると、300 万～499 万円の区分においては玉簾の滝への訪問割合がやや大きく、700 万円以上の区分では川南エリアと眺海の森エリアの間や八幡エリアと眺海の森エリアの間などといった大きな移動が特徴として挙げられるが、これらがサンプル数の差によるものである可能性は否定できない。

図表 4-9 世帯年収別の移動経路ネットワーク



4. 5 同行グループ構成別の訪問傾向・訪問地点の数

ここでは、同行者の有無や同行したグループの人数、性別構成、年齢、間柄などによってタイプに分け、それぞれの訪問地点の数および訪問ルートの特徴について見ていく。

まず、各タイプの訪問地点数の平均を図表 4-10 に示す。表中にある「子連れ家族」は 19 歳以下の男性または女性と 20 歳以上の男性または女性を含む家族のみで構成されたグループを意味する。「不明」の該当者数がやや多いのは、アンケートでの回答に際して、1 人での旅行かとの質問（問 4）に対して「いいえ」と答えながら、同行者の構成についての質問（問 5）が空欄であるケースが多数発生したためである。訪問地点数の平均値が最も大きいのは「1 人：成人女性」、最も小さいのは「1 人：成人男性」であり、1 人（同行者なし）での旅行において成人女性と成人男性のとの間に大きな差が見られたが、Welch の t 検定において両者に有意な差は確認されなかった。また、1 人の場合と 2 人以上の場合を比較してみると、男性は（混合を含め）複数で旅行する方が 1 人で旅行するよりも訪問地点数の平均が大きくなる一方で、女性はかえって複数で旅行する方が 1 人で旅行するよりも訪問地点数の平均が小さくなる。

図表 4-11 では、同行グループ構成別の移動経路ネットワークを示す。各辺の太さおよび各点の大きさに対しては図表 4-5 と同様の調整をしてある。

図表 4-10 同行グループ構成別の訪問地点数

同行グループ構成	該当者数	訪問地点数平均
1人:成人男性	79	2.75
1人:成人女性	27	3.44
2人以上:成人男性のみ	48	2.81
2人以上:成人女性のみ	46	2.80
2人以上:成人男女混合	194	3.23
子ども連れ家族	85	2.91
不明	15	3.20

1人での旅行では、成人男性は八幡エリア、鳥海山エリアをはじめとする郊外エリアへの訪問が多く、成人女性は市街地エリアに加え土門拳記念館、本間美術館への訪問が多い。2人以上の旅行については、男性のみの集団、女性のみの集団はそれぞれ1人のときと同様の訪問傾向があるように見受けられるが、いずれにおいても1人のときと比べて市街地エリア以外の観光地点への訪問割合が小さいように見える。成人男女混合のグループは、行動範囲も広く移動パターンも多様である印象を受けるが、このタイプに該当するサンプルの数は男性のみ、または女性のみタイプと比べて極端に多く、特徴に依存した傾向として断言することはできない。

子ども連れ家族のタイプは、昨年度よりもサンプル数が増加したこともあって郊外エリアへの訪問も若干見られるようになったが、市街地エリア内での移動がほとんどである。

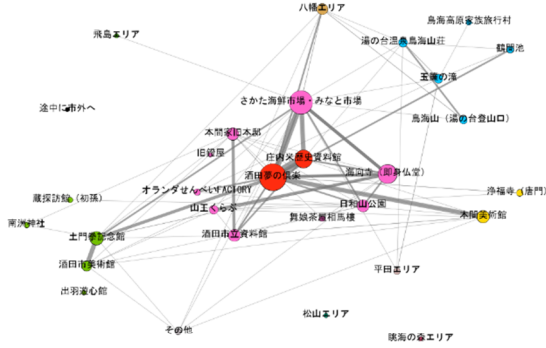
4. 6 利用交通手段別の訪問傾向・訪問地点の数

利用交通手段別の訪問地点数の平均値を図表 4-12 に示す。各区分の分類は3章で用いた基準に従った。

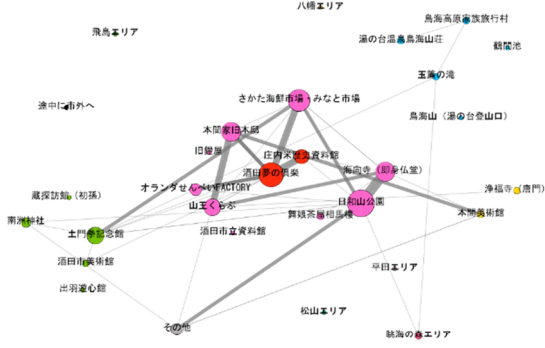
平均での訪問地点数が最も多いのは路線バス、そして次点は自転車であった。昨年度の調査においては徒歩が最大の平均訪問地点数となったが、訪問地点を追加する際に生じる費用(限界費用)が比較的低いほど、訪問地点が多くなるという傾向を裏付ける結果となった。しかし、今年度における徒歩の平均訪問地点数は昨年度より大きく減少した。この原因には、今年度から気温の高い8月が調査期間に含まれるようになったことが考えられる。一方、平均訪問地点数が最小となったのは観光バス・貸切バス、2番目に小さいのはタクシー・ハイヤーという結果になった。観光バス・貸切バスについては、多くの場合、団体での旅行に使用され、事前の計画から各個人の判断によって新たな訪問先を追加することが難しい。タクシー・ハイヤーについては、先ほどの路線バスや自転車などとは対照的に訪問地点の追加にかかる費用が高いため、比較的訪問地点が多くなりづらいことが考えられる。任意の2区分の平均値に対して Welch の t 検定を行うと、路線バスは自転車を除いたすべての区分と、観光バス・貸切バスは自家用車および自転車と、そして自転車はタクシー・ハイヤーとの間で有意な差が見られた。

図表 4-11 同行グループ構成別の訪問ルート

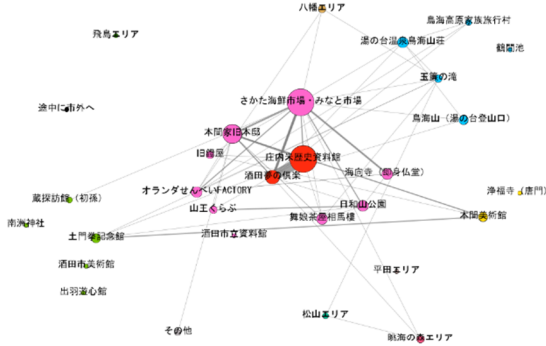
(1) 1人：成人男性のみ



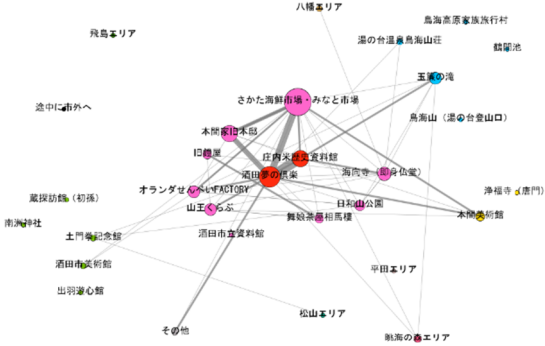
(2) 1人：成人女性のみ



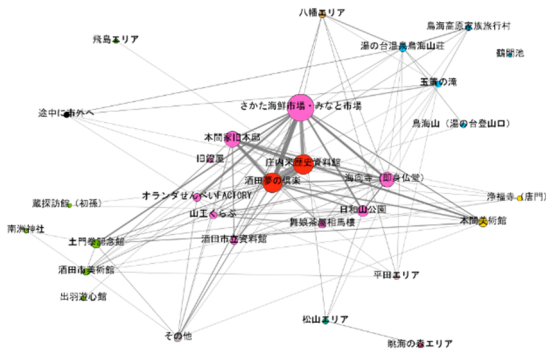
(3) 2人以上：成人男性のみ



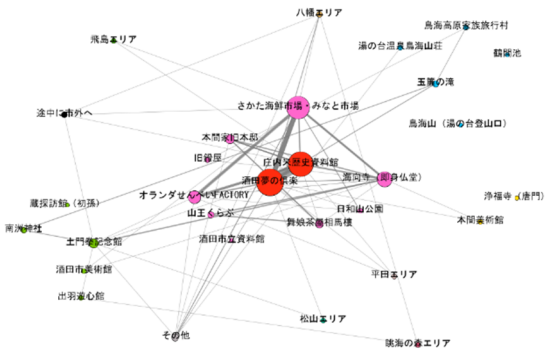
(4) 2人以上：成人女性のみ



(5) 2人以上：成人男女混合



(6) 子ども連れ家族



利用交通手段別の移動経路ネットワークを図表 4-13 に示す。各辺の太さおよび各点の大きさは、図表 4-5 と同様の調整を施した。徒歩においては、山居倉庫（酒田夢の倶楽）、本間家旧本邸、浄福寺（山門）、本間美術館に訪問割合が集中している。若干の例外はあるものの、それらを除けば行動範囲は市街地エリア、駅前・寺町エリアにほぼ限定されていることが見て取れる。この結果が長距離移動を困難とする徒歩の特徴が影響したものと推察されるが、サンプル数が少ないことが原因の可能性もあるため断定はできない。自転車においては、最上川を越えて川南エリアを訪問する割合もわずかに増加する。市街地エリア内でも、

図表 4-12 利用交通手段別の訪問地点数

市内の交通手段	該当者数	訪問地点数平均
徒歩	15	2.80
自転車	22	3.91
路線バス	22	5.41
観光バス・貸切バス	25	2.24
レンタカー	48	2.90
自家用車、社用・公用車	340	2.95
タクシー・ハイヤー	16	2.31
不明	2	4.00

本間家旧本邸、さかた海鮮市場・みなと市場、日和山公園、山王くらぶへの訪問割合が徒歩と比べて高く、訪問地が分散している様子が見られる。路線バスにおいては、市街地エリア、駅前・寺町エリア、川南エリア内での移動に限定されてはいるものの、比較的長距離な移動が多く見られる。観光バス・貸切バスにおいては、ツアー内容によって行動範囲が制限されるため、山居倉庫の2地点、さかた海鮮市場・みなと市場、舞妓茶屋相馬楼、玉簾の滝への訪問にほぼ限られている。レンタカー・ハイヤーと自家用車または社用・公用車は、移動能力自体に大きな違いがないと考えられるが、結果として訪問傾向に大きな違いが見られた。レンタカーにおいては、主要な観光地に訪問地点が限られており、特に市街地エリア内の移動に集中していることが分かる。一方、自家用車においては市街地エリアの山居倉庫と海鮮市場を除く地点の訪問割合が相対的に小さい分、市街地エリア以外のエリアへの多様な訪問傾向が見受けられる。このような両者の違いはこれまでの調査においても同様に指摘されており、またしても調査結果の頑健性を示す結果となったが、サンプル数に大きな開きがある点を多少差し引いて受け止める必要がある。最後に、タクシー・ハイヤーにおいては、希望の地点には難なく移動できる便利さから市街地エリア、川南エリアの間の移動が活発であるが、金銭的費用が高いことが影響してか、長距離移動を要する他のエリアへの訪問は見られなかった。

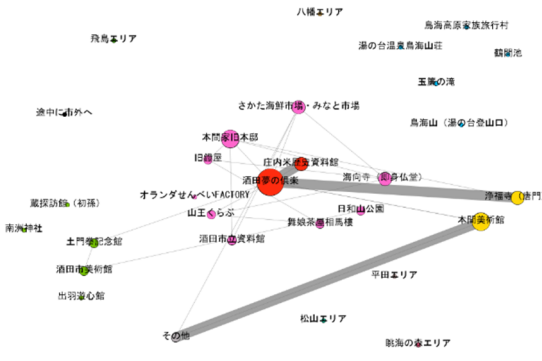
4. 7 最初に訪問する地点・最後に訪問する地点

ここまでは酒田市内での訪問ルートを見てきたが、本章の最後に酒田市への訪問に際して初めに訪問する地点、あるいは酒田市への訪問を終える際最後に訪問する地点にも注目しておきたい。

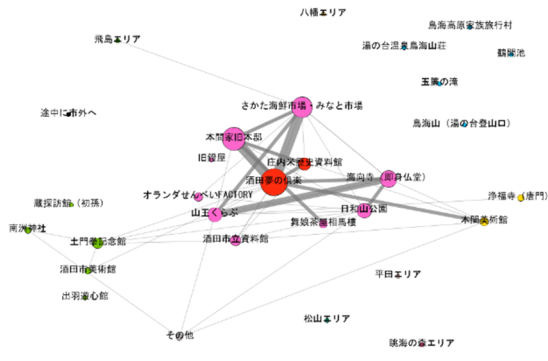
図表 4-14 は、回答者が各地点を酒田市内観光における最初の訪問地として選んだ割合を表している。酒田市外あるいは居住地から最初の訪問地点への移動は、左上の点から各地点への有向辺（矢印）で表現し、各地点の大きさおよび各地点に至る有向辺はその地点に最初に訪れた回答者の割合を表す。辺の重なりによって見にくくなることを考慮し、各辺には辺の終点（最初の訪問地点）と同じ色をつけた。

図表 4-13 利用交通手段別の移動経路ネットワーク

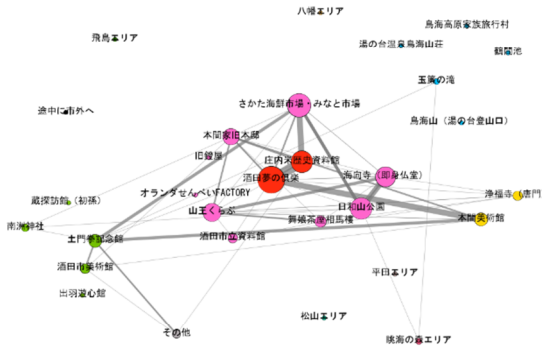
(1) 徒歩



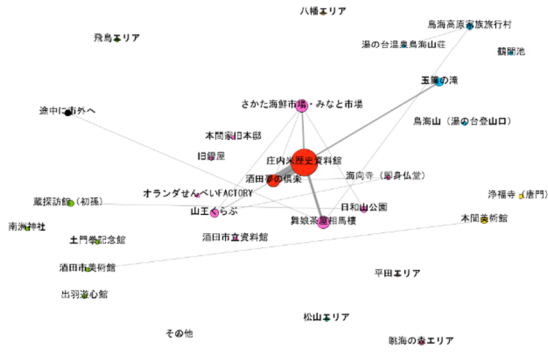
(2) 自転車



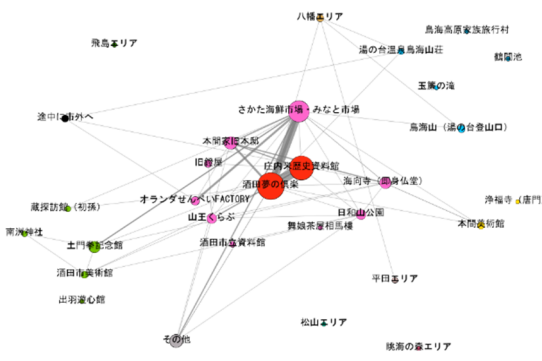
(3) 路線バス



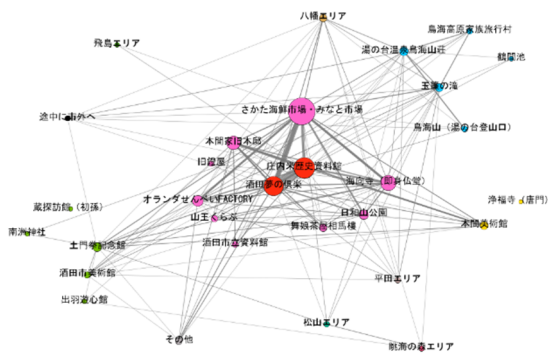
(4) 観光バス・貸切バス



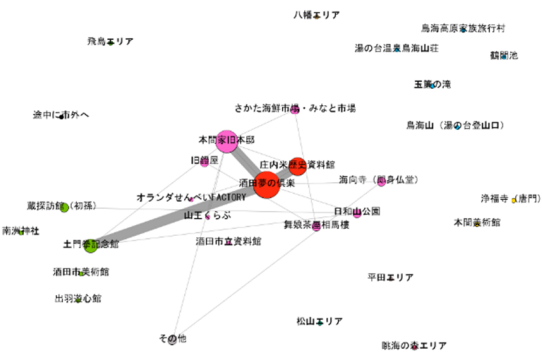
(5) レンタカー



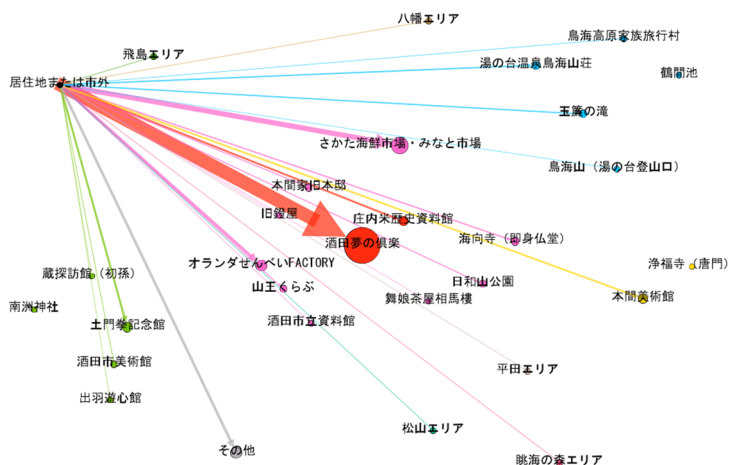
(6) 自家用車または社用・公用車



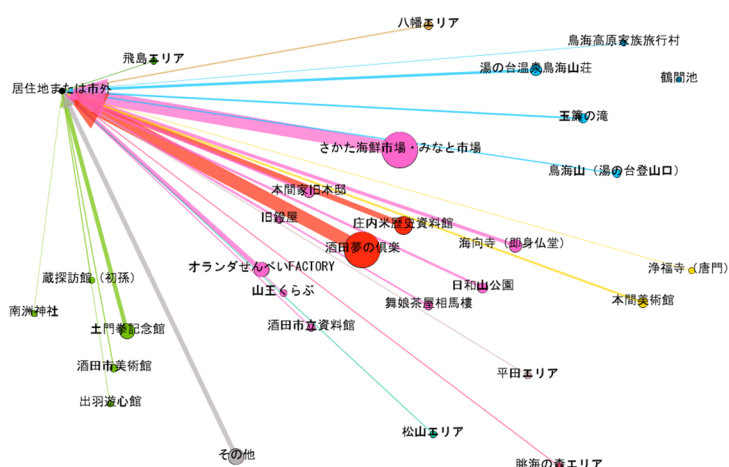
(7) タクシー・ハイヤー



図表 4-14 回答者が初めに訪問した地点



図表 4-15 回答者が最後に訪問した地点



一見して明らかなように、最初の訪問地点として酒田夢の倶楽を選んだ回答者の割合が圧倒的に多い。この結果によれば、山居倉庫が酒田市観光における出発地としての役割を持っていることが分かる。

他方、図表 4-15 は、回答者が各地点を酒田市内観光訪問における最後に訪問地として選んだ割合を示す。最後の訪問地点から酒田市外あるいは居住地への移動は、各点から酒田市外あるいは居住地を示す左上の点への有向辺（矢印）で表現し、各地点の大きさおよび各地点に至る有向辺はその地点を最後に訪れた回答者の割合を表す。辺の重なりによって見にくくなることを考慮し、各辺には辺の始点（最後の訪問地点）と同じ色をつけた。

先述した最初の訪問地と比べて、最後に訪問する地点はより分散的である。酒田夢の倶楽は最後の訪問地としても割合が高いが、さかた海鮮市場・みなと市場も同程度に高い割合を占めている。両地点の共通点を考えると、酒田市訪問の最後に山居倉庫とさかた海鮮市場・みなと市場へは土産物を買いに訪れた可能性が考えられる。これらの他に、庄内米歴史資料館、土門拳記念館、オランダせんべい FACTORY などの訪問割合も若干程度存在する。

5 離散選択モデルに基づく回帰分析

本章では、酒田市へ観光に訪れる人々の行動や属性が酒田市への満足度とどのような関係があるのかを、離散選択モデルに基づいて分析する。

5.1 モデル

現実の個人の選択は連続的なものよりむしろ離散的なものが多く、本受託研究におけるアンケート調査でも回答者はいくつかの選択肢の中から1つ以上を選択することが求められている。とりわけ、酒田市への旅行の満足度は4段階評価の中から最も自分の気持ちに近い選択肢を選ぶものとなっており、これは順序を持つ離散選択モデルとして表現することができる。本節では、Train (2009) に基づき、モデルの概要を説明する。

個人が旅行から得る効用 U が次のように表されるとする。

$$U = \beta'X + \varepsilon$$

ここで、 X は個人の効用に影響を与える観察可能な要因のベクトル、 β はその要因にかかる係数のベクトル、 ε は個人の効用に影響を与える観察不可能な確率変数である。個人の効用水準は実際に観測することのできない潜在変数であるが、これを用いて離散的な選択を定式化することは可能である。個人の効用水準がある閾値 v_1 を上回るならば「たいへん満足している」と回答し、効用水準が v_1 を下回るが閾値 v_2 を上回るならば「満足している」と回答する。同様に考えると、満足度の選択は次のように表すことができる。

回答 = 「たいへん満足している」 if $U > v_1$

回答 = 「満足している」 if $v_1 \geq U > v_2$

回答 = 「不満である」 if $v_2 \geq U > v_3$

回答 = 「たいへん不満である」 if $v_3 \geq U$

個人が「たいへん満足している」と回答する確率は

$$\Pr(U > v_1) = \Pr(\beta'X + \varepsilon > v_1) = \Pr(\varepsilon > v_1 - \beta'X) = 1 - \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X)$$

となり、「満足している」と回答する確率は

$$\begin{aligned} \Pr(v_1 \geq U > v_2) &= \Pr(v_1 \geq \beta'X + \varepsilon > v_2) \\ &= \Pr(v_1 - \beta'X \geq \varepsilon > v_2 - \beta'X) \\ &= \Pr(\varepsilon \leq v_1 - \beta'X) - \Pr(\varepsilon \leq v_2 - \beta'X) \end{aligned}$$

となる。したがって、 ε の分布によって選択確率が決まることになる。

観察不可能な ε が標準正規分布に従うと想定した場合、このモデルは順序プロビットモデルと呼ばれ、「たいへん満足している」、「満足している」と回答する確率はそれぞれ

$$\Pr(U > v_1) = 1 - \Phi(v_1 - \beta'X)$$

$$\Pr(v_1 \geq U > v_2) = \Phi(v_1 - \beta'X) - \Phi(v_2 - \beta'X)$$

で計算することができる。ここで、 $\Phi(\cdot)$ は標準正規分布関数である。「不満である」、「たいへん不満である」と回答する確率も同様に導出できる。係数 β と閾値 v_1, \dots, v_4 を最尤法で推定し、その統計的有意性を検定することによって、観察可能な要因 X が満足度に与える影響を調べる。

5. 2 変数の説明

被説明変数には酒田市への満足度を用いた。この変数は、「たいへん満足している」と回答している場合には4、「満足している」と回答している場合には3、「不満である」と回答している場合には2、「たいへん不満である」と回答している場合には1をとる。

酒田市を観光した回答者の行動を表す変数として、酒田市内の各エリアに訪問したかどうか、酒田市内のみの観光であったかどうか、酒田市に宿泊したかどうか（酒田市の泊数が正の数であるかどうか）、一人旅であったかどうかを用いた。たとえば、市街地エリア訪問ダミーは、調査票Q9において市街地エリアの観光地のいずれかを訪れたと回答している場合には1、市街地エリアの観光地をまったく訪れていないと回答している場合には0をとるダミー変数である。

また、酒田市における1人・1日あたり支出額も回答者の行動を表す変数として用いた。3.3節で示した、宿泊代、飲食費、買物代、入場料・拝観料、その他（体験費用等）の1人・1日あたりの金額を用いている。3.3節において異常値として除外したものは本章の分析においても除外した。また、支出項目別の金額ではなく、交通費以外の1人・1日あたり支出総額を用いるケースも分析した。

回答者の属性を表す変数として、性別、年齢、世帯年収を用いた。性別については、回答者が女性であれば1、男性であれば0をとるダミー変数とした。年齢については回答者の年齢層の中間値を、世帯年収については回答者の年収の幅の中間値をそれぞれ用いた。

すべての変数の記述統計は図表5-1の通りである。酒田市を訪れた人のほとんどが市街地エリアの観光地を訪れているのに対し、それ以外のエリアにはあまり行っていない。また、約3割の人が酒田市のみを旅行しており、酒田市を観光した人の約半数は日帰り客であることがうかがえる。

図表 5-1 回帰分析に用いた変数の記述統計

	観測数	平均	標準偏差	最小値	最大値
酒田市に対する満足度	512	3.38	0.55	2	4
酒田市内エリア訪問ダミー					
市街地エリア	492	0.89	0.32	0	1
駅前・寺町エリア	492	0.11	0.32	0	1
川南エリア	492	0.17	0.37	0	1
鳥海山エリア	492	0.14	0.35	0	1
八幡エリア	492	0.04	0.21	0	1
眺海の森エリア	492	0.02	0.15	0	1
松山エリア	492	0.02	0.14	0	1
平田エリア	492	0.02	0.15	0	1
飛島エリア	492	0.01	0.10	0	1
ツアーパックの場合(ダミー)	473	0.16	0.37	0	1
酒田市内のみの観光(ダミー)	486	0.29	0.45	0	1
酒田市に宿泊した(ダミー)	488	0.49	0.50	0	1
一人旅(ダミー)	515	0.23	0.42	0	1
1人・1日あたり支出額(千円)					
総額(交通費以外)	388	5.16	7.00	0	65
宿泊代	388	2.55	4.16	0	35
飲食費(昼)	387	0.62	1.17	0	15
飲食費(夜)	388	0.82	1.90	0	20
買物代	388	0.96	1.82	0	20
入場料・拝観料	388	0.17	0.62	0	7
その他(体験費用等)	387	0.05	0.45	0	5.83
女性(ダミー)	514	0.50	0.50	0	1
年齢(歳)	515	50.51	15.59	5	85
世帯年収(万円)	502	592.13	331.74	0	1200

5. 3 分析結果と含意

本節では、サンプル全体を用いた分析結果、旅行の目的が観光であった人に限定した場合の分析結果、質問紙で回答した人に限定した場合の分析結果、旅行の目的が観光で、かつ質問紙で回答した人に限定した場合の分析結果を示す。

旅行の目的が観光であった人に限定する理由は次の通りである。目的がビジネスである人はほとんど観光せずに帰ることが多いと考えられ、帰省が目的である人は食事代や宿泊代がほぼゼロになると考えられる。このことから、観光客の行動や属性と酒田市への満足度との関係を分析するならば、観光が目的である人に限定した方がより明確な傾向を検出できるものと予想される。

質問紙で回答した人に限定するのは、今年度の Web による調査では酒田市における 1 人・1 日あたり支出額が厳密な数値とならないからである。これは、3 泊以上宿泊した場合に、その泊数のデータを具体的に得られていないことに起因する。この場合、3. 3 節では、「3 泊」として 1 人・1 日あたり支出額を計算しているの、過大に算定されている可能性がある。質問紙ではこのような問題がないため、質問紙で回答した人に限定することによって支出額に関する結果を厳密に解釈できる。

なお、3. 3 節で述べたように、酒田市における 1 人・1 日あたり支出額はツアーパックの場合とそうでない場合で意味合いがやや異なることから、ツアーパックを利用した人とそうでない人でサンプルを分けて推定を行うことが望ましい。しかしながら、ツアーパックを利用した人が少なく、説明変数のある特定の組み合わせが満足度を完全に決定してしまうケースが存在したため、ここではツアーパックを利用していない人に限定した結果のみを後で示す。

サンプル全体を用いて、順序プロビットモデルで推定した結果が図表 5-2 の(1)-(3)列に示されている。(1)列は支出額に関する変数を除いた結果、(2)列は(1)列の説明変数群に酒田市における 1 人・1 日あたり支出総額（交通費以外）を加えた結果、(3)列は酒田市における 1 人・1 日あたり支出総額の代わりに支出項目ごとの金額を加えた結果である。川南エリア訪問ダミー、飛島エリア訪問ダミーがともに正で有意であり、このエリアの観光地を訪問した人の満足度が高い。また、年齢が負で有意であり、若い人ほど満足度が高い。しかし、支出額については有意な結果とならなかった。

旅行の目的が観光であった人に限定しても、上記の傾向は変わらず観察された（図表 5-2 の(4)-(6)列）。それに加えて、眺海の森エリア訪問ダミーは負で有意、松山エリア訪問ダミーは正で有意となっている。また、酒田市内のみの旅行であった人の方が他地域も訪れる旅行であった人に比べて満足度が高い。さらに、酒田市における 1 人・1 日あたり支出総額が高いほど満足度が高いが、支出項目ごとに見ると有意な結果は得られなかった。

図表 5-2 推定結果 (全体)

	全体			観光が目的		
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	酒田市に対する満足度			酒田市に対する満足度		
酒田市内エリア訪問ダミー						
市街地エリア	0.0958 (0.173)	0.128 (0.197)	0.171 (0.200)	0.260 (0.198)	0.230 (0.233)	0.217 (0.243)
駅前・寺町エリア	0.0154 (0.177)	0.0177 (0.201)	-0.0158 (0.224)	0.144 (0.194)	0.180 (0.228)	0.187 (0.246)
川南エリア	0.294* (0.155)	0.471** (0.185)	0.445** (0.188)	0.381** (0.180)	0.566** (0.224)	0.585** (0.237)
鳥海山エリア	0.191 (0.188)	0.119 (0.222)	0.151 (0.227)	0.0512 (0.239)	-0.0780 (0.293)	-0.0434 (0.305)
八幡エリア	0.152 (0.287)	0.166 (0.302)	0.218 (0.312)	0.456 (0.453)	0.101 (0.453)	0.153 (0.491)
眺海の森エリア	-0.0269 (0.356)	-0.302 (0.361)	-0.344 (0.368)	-0.489 (0.328)	-0.970*** (0.170)	-0.942*** (0.205)
松山エリア	0.381 (0.528)	0.789 (0.636)	0.794 (0.642)	5.383*** (0.364)	5.414*** (0.406)	5.635*** (0.409)
平田エリア	0.122 (0.327)	0.480 (0.442)	0.427 (0.454)	-0.0641 (0.431)	0.174 (0.637)	0.266 (0.628)
飛島エリア	5.194*** (0.199)	4.967*** (0.245)	4.948*** (0.250)	4.957*** (0.221)	4.905*** (0.327)	5.110*** (0.326)
酒田市内のみの観光	0.0916 (0.142)	0.170 (0.162)	0.135 (0.165)	0.238 (0.203)	0.552** (0.242)	0.568** (0.246)
酒田市に宿泊した	-0.0159 (0.128)	-0.149 (0.161)	-0.144 (0.181)	0.0988 (0.161)	-0.140 (0.208)	-0.0339 (0.261)
一人旅	-0.125 (0.159)	-0.256 (0.182)	-0.228 (0.189)	-0.0816 (0.215)	-0.188 (0.253)	-0.146 (0.261)
1人・1日あたり支出額 総額(交通費以外)		0.0136 (0.0107)			0.0345** (0.0156)	
宿泊代			0.0184 (0.0229)			0.0171 (0.0372)
飲食費(昼)			0.0865 (0.0564)			0.107 (0.0673)
飲食費(夜)			0.00432 (0.0382)			0.0709 (0.0514)
買物代			-0.0395 (0.0357)			-0.0529 (0.0651)
入場料・拝観料			0.0498 (0.107)			0.00123 (0.162)
その他(体験費用等)			0.156 (0.138)			1.873 (1.449)
女性	-0.0936 (0.129)	-0.0888 (0.146)	-0.0949 (0.149)	-0.155 (0.158)	-0.0626 (0.181)	-0.0658 (0.187)
年齢	-0.0207*** (0.00443)	-0.0203*** (0.00500)	-0.0198*** (0.00502)	-0.0212*** (0.00585)	-0.0202*** (0.00652)	-0.0210*** (0.00682)
世帯年収	0.000299 (0.000187)	0.000351 (0.000220)	0.000349 (0.000223)	0.000206 (0.000236)	0.000320 (0.000288)	0.000339 (0.000291)
サンプルサイズ	429	339	337	291	229	229
擬似決定係数	0.0620	0.0689	0.0728	0.0817	0.106	0.125

(注) カッコ内は頑健な標準誤差である。***, **, * はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

図表 5-3 推定結果（質問紙回答のサンプル）

	質問紙回答		質問紙回答&観光が目的	
	(7)	(8)	(9)	(10)
	酒田市に対する満足度		酒田市に対する満足度	
酒田市内エリア訪問ダミー				
市街地エリア	0.242 (0.255)	0.302 (0.264)	0.241 (0.310)	0.314 (0.336)
駅前・寺町エリア	0.103 (0.243)	0.0260 (0.275)	0.446 (0.280)	0.570* (0.314)
川南エリア	0.373 (0.234)	0.275 (0.244)	0.610** (0.265)	0.576** (0.280)
鳥海山エリア	0.111 (0.250)	0.189 (0.260)	-0.0794 (0.361)	-0.00228 (0.388)
八幡エリア	0.247 (0.350)	0.315 (0.360)	0.376 (0.524)	0.301 (0.575)
眺海の森エリア	-0.135 (0.392)	-0.231 (0.394)	-0.901*** (0.201)	-0.743*** (0.267)
松山エリア	0.434 (0.673)	0.402 (0.657)	-	-
平田エリア	0.243 (0.520)	0.00991 (0.607)	0.0853 (0.711)	0.0514 (0.819)
飛島エリア	-	-	-	-
酒田市内のみの観光	-0.125 (0.216)	-0.108 (0.226)	0.00451 (0.325)	-0.00308 (0.337)
酒田市に宿泊した	-0.106 (0.201)	-0.179 (0.237)	-0.274 (0.260)	-0.418 (0.333)
一人旅	-0.492** (0.245)	-0.459* (0.255)	-0.538 (0.352)	-0.578 (0.360)
1人・1日あたり支出額 総額(交通費以外)	0.0207* (0.0125)		0.0454** (0.0200)	
宿泊代		0.0508* (0.0276)		0.0896** (0.0449)
飲食費(昼)		0.0221 (0.0633)		0.0218 (0.0661)
飲食費(夜)		0.00811 (0.0420)		0.0626 (0.0485)
買物代		-0.0871** (0.0391)		-0.223*** (0.0787)
入場料・拝観料		0.270* (0.161)		0.211 (0.162)
その他(体験費用等)		0.203 (0.128)		2.381* (1.445)
女性	-0.119 (0.178)	-0.133 (0.183)	-0.177 (0.218)	-0.212 (0.225)
年齢	-0.0199*** (0.00531)	-0.0205*** (0.00546)	-0.0221*** (0.00666)	-0.0242*** (0.00736)
世帯年収	-3.55e-05 (0.000272)	-7.98e-05 (0.000280)	8.16e-06 (0.000345)	4.17e-06 (0.000356)
サンプルサイズ	239	239	158	158
擬似決定係数	0.0633	0.0846	0.118	0.168

(注)ハイフンで示したのは、共線性のために除外された変数である。カッコ内は頑健な標準誤差である。***, **, * はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

図表 5-3 は、支出額が厳密な質問紙回答のサンプルに限定した場合の推定結果である。観光が目的のサンプルに限定すれば、図表 5-2 とおおむね同じ結果が得られ、支出項目ごとに見ても一部有意な結果となっている。宿泊に多く支出している人ほど満足度が高く、買物に多く支出している人ほど満足度が低い。

図表 5-4 と 5-5 は、ツアーパックでない場合に限定したときの推定結果である。Web 回答のサンプルを含めても、質問紙回答のサンプルのみを用いても、ツアーパックでない場合に限定しないとほぼ同様の結果が得られている。ツアーパックを利用していない人は、駅前・寺町エリア、川南エリアに訪問すると満足度が高いが、眺海の森エリアに訪問すると満足度が低い。支出総額が高いほど、特に宿泊に多く支出している場合に満足度が高い。一方、買物に多く支出している人ほど満足度が低い。

宿泊にお金をかけるほど満足度が高いという結果は自然なもので、昨年度の結果と変わらない。宿泊代が高いほど設備が整っていて質の高い食事が提供されると考えられるので、それが観光客の満足度を引き上げるであろう。

しかしながら、買物代が満足度と負の関係にあるという結果は昨年度とは異なる。これは、お土産や名産品が買える場所が限られている、コストに見合うだけの良質なものが売られていない、良質な名産品についての情報が不足しているなどの要因が考えられる。インターネット等で収集できる情報ではなく、地元の人が勧める店や物産のような有益な情報がなければ、金額の高いものを買ったわりには満足できなかったと思うのも自然なことであろう。

図表 5-4 推定結果 (ツアーパックでない場合)

	全体			観光が目的		
	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)
	酒田市に対する満足度			酒田市に対する満足度		
酒田市内エリア訪問ダミー						
市街地エリア	0.0643 (0.191)	0.183 (0.203)	0.234 (0.205)	0.212 (0.224)	0.313 (0.244)	0.304 (0.250)
駅前・寺町エリア	-0.00446 (0.201)	-0.0140 (0.213)	-0.0565 (0.235)	0.124 (0.223)	0.147 (0.243)	0.0907 (0.262)
川南エリア	0.329* (0.177)	0.408** (0.199)	0.397** (0.201)	0.375* (0.208)	0.459* (0.246)	0.485* (0.252)
鳥海山エリア	0.286 (0.198)	0.305 (0.219)	0.342 (0.227)	0.107 (0.254)	0.175 (0.296)	0.272 (0.302)
八幡エリア	0.222 (0.301)	0.118 (0.309)	0.145 (0.319)	0.347 (0.459)	0.0391 (0.466)	0.0833 (0.524)
眺海の森エリア	-0.207 (0.390)	-0.294 (0.383)	-0.323 (0.389)	-1.023*** (0.198)	-1.095*** (0.203)	-1.130*** (0.237)
松山エリア	0.597 (0.635)	0.561 (0.672)	0.553 (0.674)	-	-	-
平田エリア	0.151 (0.359)	0.423 (0.440)	0.358 (0.454)	-0.0161 (0.508)	0.116 (0.619)	0.228 (0.594)
飛島エリア	5.287*** (0.226)	5.297*** (0.260)	5.254*** (0.263)	4.919*** (0.234)	4.927*** (0.342)	6.826*** (0.322)
酒田市内のみの観光	0.00823 (0.160)	0.0571 (0.173)	0.0382 (0.174)	0.238 (0.242)	0.445* (0.266)	0.456* (0.271)
酒田市に宿泊した	0.00506 (0.143)	-0.114 (0.179)	-0.128 (0.203)	0.211 (0.187)	-0.0341 (0.244)	0.201 (0.357)
一人旅	-0.126 (0.185)	-0.253 (0.195)	-0.224 (0.201)	-0.0578 (0.253)	-0.183 (0.266)	-0.168 (0.272)
1人・1日あたり支出額 総額(交通費以外)		0.0118 (0.0116)			0.0245 (0.0154)	
宿泊代			0.0206 (0.0246)			-0.0185 (0.0463)
飲食費(昼)			0.0926 (0.0571)			0.120* (0.0693)
飲食費(夜)			0.00907 (0.0386)			0.0681 (0.0544)
買物代			-0.0474 (0.0369)			-0.0458 (0.0724)
入場料・拝観料			0.0300 (0.110)			-0.00217 (0.164)
その他(体験費用等)			0.0843 (0.100)			1.596 (1.636)
女性	-0.108 (0.148)	-0.0551 (0.160)	-0.0711 (0.163)	-0.0683 (0.188)	-0.0247 (0.209)	-0.0540 (0.212)
年齢	-0.0237*** (0.00542)	-0.0209*** (0.00587)	-0.0207*** (0.00593)	-0.0226*** (0.00731)	-0.0190** (0.00787)	-0.0198** (0.00798)
世帯年収	0.000338 (0.000219)	0.000435* (0.000244)	0.000410* (0.000248)	0.000341 (0.000295)	0.000510 (0.000336)	0.000511 (0.000337)
サンプルサイズ	340	299	298	225	193	193
擬似決定係数	0.0738	0.0701	0.0746	0.0867	0.0928	0.109

(注) カッコ内は頑健な標準誤差である。***, **, * はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

図表 5-5 推定結果 (ツアーパックでない場合、質問紙回答のサンプル)

	質問紙回答		質問紙回答&観光が目的	
	(17)	(18)	(19)	(20)
	酒田市に対する満足度		酒田市に対する満足度	
酒田市内エリア訪問ダミー				
市街地エリア	0.201 (0.265)	0.247 (0.272)	0.193 (0.336)	0.253 (0.355)
駅前・寺町エリア	0.0897 (0.259)	0.0218 (0.284)	0.539* (0.303)	0.670* (0.343)
川南エリア	0.323 (0.256)	0.270 (0.265)	0.572* (0.303)	0.640** (0.311)
鳥海山エリア	0.0769 (0.262)	0.129 (0.274)	-0.165 (0.397)	-0.0436 (0.415)
八幡エリア	0.287 (0.359)	0.334 (0.363)	0.677 (0.568)	0.575 (0.604)
眺海の森エリア	-0.176 (0.403)	-0.255 (0.404)	-0.964*** (0.239)	-0.759** (0.303)
松山エリア	0.380 (0.682)	0.353 (0.670)	-	-
平田エリア	0.325 (0.531)	0.130 (0.598)	0.187 (0.717)	0.0909 (0.812)
飛島エリア	-	-	-	-
酒田市内のみの観光	-0.250 (0.230)	-0.240 (0.237)	-0.429 (0.340)	-0.479 (0.344)
酒田市に宿泊した	0.0279 (0.219)	-0.0437 (0.257)	-0.186 (0.329)	-0.444 (0.457)
一人旅	-0.527** (0.250)	-0.489* (0.260)	-0.633* (0.368)	-0.712* (0.373)
1人・1日あたり支出額 総額(交通費以外)	0.0185 (0.0134)		0.0447* (0.0244)	
宿泊代		0.0452 (0.0280)		0.0976* (0.0560)
飲食費(昼)		0.0320 (0.0651)		0.0282 (0.0672)
飲食費(夜)		0.000874 (0.0444)		0.0680 (0.0514)
買物代		-0.0607 (0.0391)		-0.189** (0.0816)
入場料・拝観料		0.207 (0.147)		0.188 (0.165)
その他(体験費用等)		0.0789 (0.0907)		2.306 (1.702)
女性	-0.0925 (0.192)	-0.114 (0.197)	-0.193 (0.241)	-0.291 (0.248)
年齢	-0.0190*** (0.00602)	-0.0199*** (0.00617)	-0.0205*** (0.00795)	-0.0256*** (0.00849)
世帯年収	2.20e-05 (0.000307)	-2.22e-05 (0.000314)	0.000113 (0.000437)	3.63e-05 (0.000441)
サンプルサイズ	213	213	133	133
擬似決定係数	0.0631	0.0771	0.121	0.152

(注) ハイフンで示したのは、共線性のために除外された変数である。カッコ内は頑健な標準誤差である。***, **, * はそれぞれ、1%、5%、10%の水準で有意であることを示す。

6 まとめ

4章では、全回答者および年齢別、世帯年収別、同行グループ構成別、利用交通手段別での訪問地点数と訪問傾向について、前者は平均値を用い、後者は移動経路パターンをネットワークとして表現する手法を用いて分析した。また、5章では、回答者の観光地の訪問や消費支出、回答者の属性が酒田市に対する満足度と与える影響について、離散選択モデルに基づいた計量分析を行った。これらの分析で得られた結果を基に、酒田市の観光を活性化させるための政策提言を行う。

まず一つは、山居倉庫の役割についてである。山居倉庫がハブとしての役割を持ち、酒田市内の観光における重要な拠点となっていることは、これまでの調査においても同様の結果が得られてきた。しかし、一口にハブと言っても、どのようなタイミングで利用されるかによっては利活用の方法に違いが出てくる。たとえば、酒田市を訪れた際の最初に訪れるような場所、いわば酒田市観光の出発地である場合には、これから酒田市内を巡る際に有用な情報の提供（もしくは宣伝）をするための工夫を施すべきであるが、反対に最後に訪れるような場所、すなわち終着地であるならば、そういった工夫は効果が薄いと言える。あるいは、酒田市観光の中間において利用されるような場所、つまり経由地であるならば、飲食店や休憩所などの拡充が有効であるが、出発地の場合にはそういった施設は不発に終わるかもしれない。ハブの役割を持つ山居倉庫という存在を有効に活用していくためには、出発地、経由地、終着地のいずれの要素が強いかを明らかにしていく必要があるだろう。また、それと合わせて、酒田夢の倶楽の移転にともなう山居倉庫の機能・効果の変化についても注視していくべきであると考えられる。

4章と5章で示した結果からは、酒田市内の観光全体での利点や欠点を垣間見ることができた。該当する主な結果をまとめると、

- 訪問地点数の全体平均が2年連続で減少している（4. 1節）
- 家族での旅行においては、訪問地点数に一貫した傾向が見られないが、成年と老年を含む区分において行動の範囲が限られている傾向が見られる（4. 2節）。
- 友人・知人での旅行においては、老年を含む区分において行動の範囲が限られている傾向が見られる（4. 3節）。
- 有意な差ではないものの、世帯年収が0～299万円の区分は他の区分よりも訪問地点数が少ない（4. 4節）。
- 男性は複数で旅行する方が1人で旅行するよりも訪問地点数の平均が大きくなる一方、女性は複数で旅行する方が1人で旅行するよりも訪問地点数の平均が小さくなる（4. 5節）。
- 路線バスや自転車などといった、訪問地点を増やすごとにかかる費用の小さい交通手段ほど訪問地点数の平均値が大きいが、移動範囲は限定的である。ただし、徒歩は訪問地点を増やすことの金銭的費用が小さいものの、気温の高い季節には移動の負荷が

大きくなるため訪問地点数が伸びない可能性がある（4. 6節）

- 酒田市内を旅行する人のほとんどが初めに山居倉庫（酒田夢の倶楽）を訪れる（4. 7節）。
- 酒田市内を旅行する人のほとんどが最後に山居倉庫（酒田夢の倶楽）、さかた海鮮市場・みなと市場を訪れる（4. 8節）。
- 酒田市内での支出総額、宿泊代にかける支出額が高いほど、旅行者の酒田市内での観光に対する満足度は高い（5. 3節）。
- 買物代にかける支出額が高いほど、旅行者の酒田市内での観光に対する満足度は低い（5. 3節）。
- 川南エリア、駅前・寺町エリアを訪れた人ほど、酒田市内での観光に対する満足度は高く、眺海の森エリアを訪れた人ほど満足度が低い（5. 3節）。

などの点が挙げられる。

今年度の調査においては、これまでに見られなかったような新たな傾向が散見された。これが何によるものかを断定することは難しいが、一つには調査期間が9月～12月から8月～12月に延長し、しかも回答者の訪問時期がこれまで調査していなかった8月に集中していたことが原因として考えられる。すなわち、旅行者の訪問傾向は時期や季節によって異なり、昨年度までの調査で明らかにしてきた旅行者の傾向は、あくまで9月～12月の4か月間に限定されたものであるという可能性がある。この考えが正しいとすれば、これまでの調査研究に基づいて提言された政策の効果はごく限られた期間の旅行者にのみ有効で、1年を通しては不十分なものになってしまう恐れもある。このような問題を排除するためには、アンケート調査を通年で実施し、酒田市を旅行する人々の訪問傾向を季節ごとに比較分析する必要がある。そうすれば、1年を通して共通する傾向とそうでない傾向を区別できるようになり、より具体的かつ有効な政策の立案が期待される。

また、5章で述べた分析結果に基づけば、酒田市での観光に関する情報、とりわけお土産や名産品などについての情報が不足していることが示唆される。昨今においては、インターネットの普及によって情報が容易に手に入る状況にはあるが、様々な情報の中から旅行者が個々の選好に合った対象を見つけ出し、選択することは必ずしも簡単ではない。旅行者が酒田市での観光において、自身にとっての最適な旅行プランを立てる上での水先案内人となるような、何らかのサポートを講じる必要があるだろう。そのうえで有効なひとつの手段として、宿泊、買物、食事などの各分野で地元の人々の「口コミ」がまとまって見られるプラットフォームがあげられる。3章で明らかになったように、インターネットの情報だけではなく家族・友人の話が重要な情報源になっていることを踏まえれば、検索しても出てこないような地元の情報をひとつに集約して、いつでも編集・閲覧・情報交換ができる環境を整えることは、酒田市観光振興の大きな一歩になると思われる。

参考文献

- Train, Kenneth E. (2009) *Discrete Choice Methods with Simulation*, Second Edition, Cambridge University Press.
- Welch, B. L. (1947) "The generalization of "Student's" problem when several different population variances are involved," *Biometrika*, 34 (1-2), pp. 28-35.